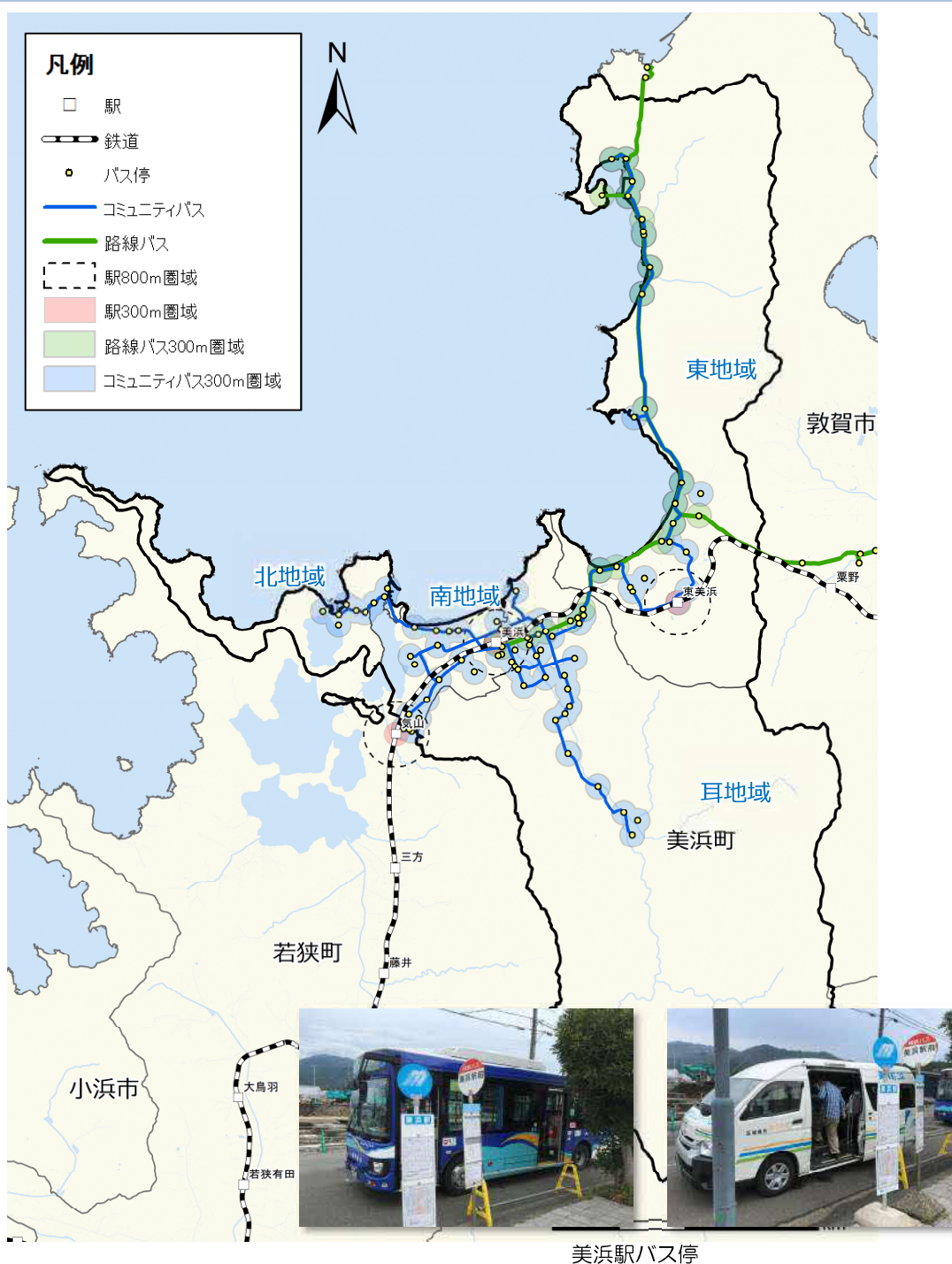


### 3-3. バス等

#### (1) 概要

- 町内を運行するバス等は、福井鉄道バス（若狭線・菅浜線）、美浜町コミュニティバス（ブルースカイ（丹生線）、ゆうなぎ（日向線）、やまびこ（新庄線））があります。
- 福井鉄道バスの若狭線は、敦賀駅～美浜駅の間を結んでおり、菅浜線は、敦賀駅～丹生・白木（敦賀市）の間を結んでいます。
- 美浜町コミュニティバスの3路線は、丹生、日向、新庄と美浜駅をそれぞれ結んでいます。



## (2) 福井鉄道バス（若狭線・菅浜線）

### 1) 運行概要

- 福井鉄道が「若狭線」、「菅浜線」を運行しています。若狭線は、敦賀駅～美浜駅の間を結んでおり、菅浜線は、敦賀駅～丹生の間（終点は丹生北側の白木（敦賀市））を結んでいます。
- 両路線とも、敦賀市内の市立病院前、国立病院前、白銀町（アルプラザ前）等を経由しており、菅浜線は、美浜駅を経由していません。
- 平日片道の便数は、若狭線が6便、菅浜線が5便で、定時定路線で運行しています。若狭線は、休日に朝夕の便が一部運休になりますが、菅浜線は、平日休日が同じダイヤです。

#### ・運賃

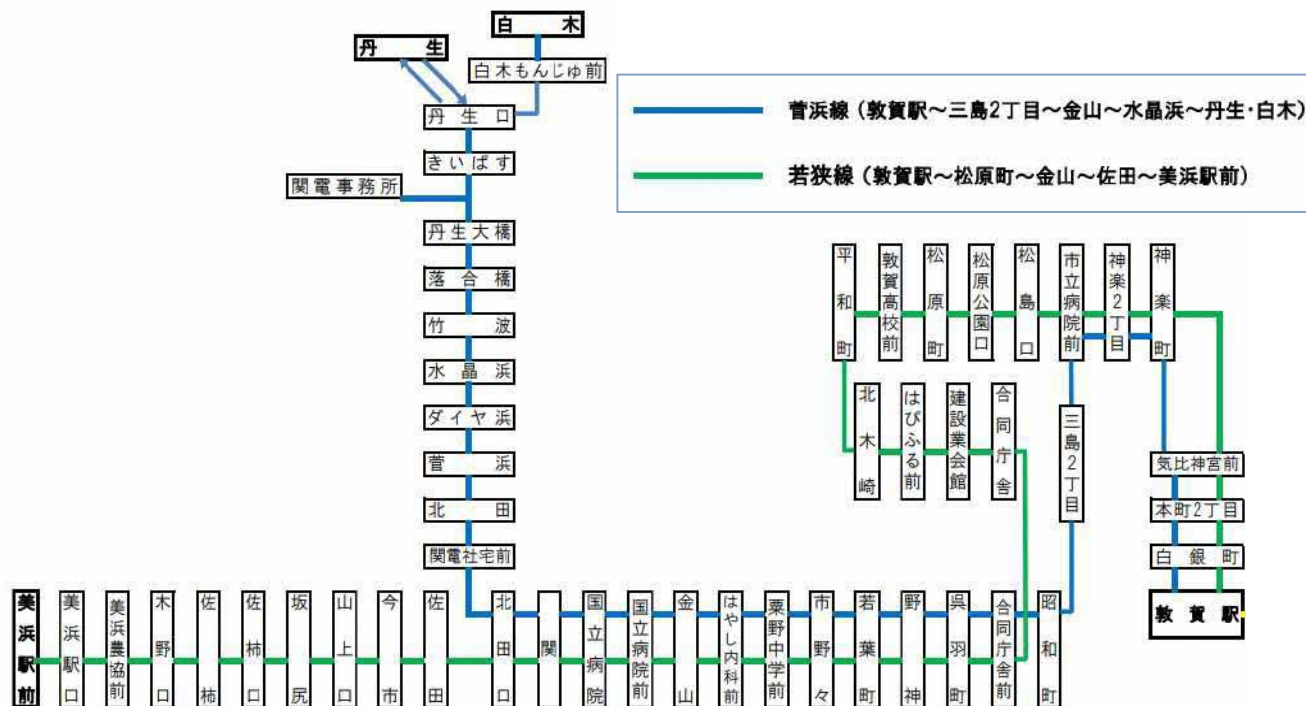
美浜町内から利用する場合は対キロ区間制となり、敦賀市内の移動に限り 200 円の均一料金となります。（参考・大人運賃：美浜駅～敦賀駅は 660 円、丹生～敦賀駅は 970 円となります。）



福井鉄道バス

#### ・車両等

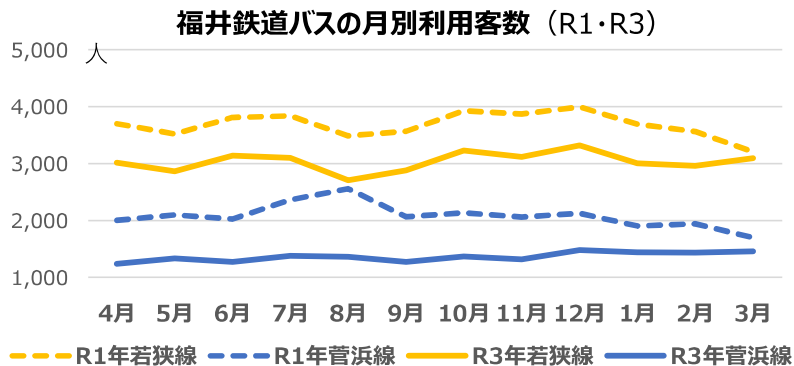
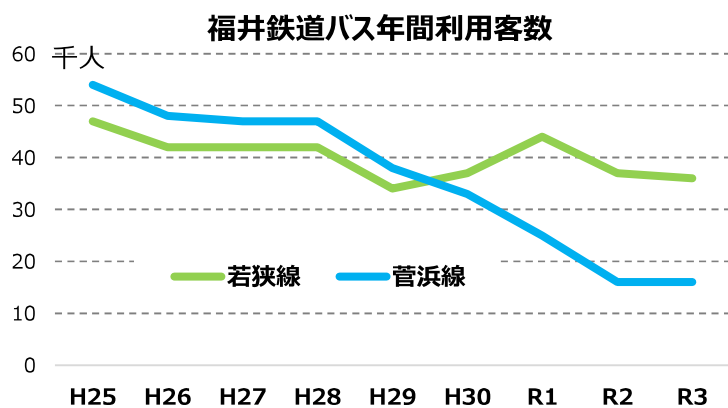
両路線とも、中型バスで運行しています。



福井鉄道 HP より

## 2) 利用状況

- いずれの路線の利用客数も、減少傾向にあります。菅浜線の減少が特に顕著です。
- 若狭線は、学校が夏休みである8月に減少する傾向があります。菅浜線は、通常であれば8月に利用客が増加する傾向がありましたが、コロナ禍にはその傾向がみられませんでした。



\*上記の利用客数は、美浜町区間、敦賀市区間の両方の乗降客を含んでいます。(いずれの路線も敦賀市内の乗降客数が多数を占めています。)

福井鉄道資料 より

### (3) 美浜町コミュニティバス

#### 1) 運行概要

- 美浜町コミュニティバスは、「ブルースカイ（丹生線）」、「ゆうなぎ（日向線）」、「やまびこ（新庄線）」の3路線が運行しており、美浜駅と各地区との間を結んでいます。
- 3路線とも、町の中心エリア（美浜町役場、Aコープ等）、美方高校・レイクヒルズ病院（町境の若狭町側）を經由しています。ブルースカイは、東美浜駅にも発着しています。
- 平日・休日で同じダイヤであり、片道の便数は5、6便です。朝夕は定時定路線で運行していますが、日中（片道3、4便）は「予約便」として運行しており、利用者登録と予約が必要です。

定時定路線バス停留所(予約便でも利用可)			
1 丹生月	24 美浜駅 丹日新	47 野口 新	
2 丹生口月	25 勤労者センター 丹日新	48 上野 新	
3 きいばす月	26 大蔵 丹日新	49 佐野 新	
4 FRセンター 月	27 気山 日	50 安江 新	
5 竹波 月	28 美方高校 丹日新	51 宮代 新	
6 菅浜 月	29 レイクヒルズ 丹日新	52 東山 新	
7 菅浜生協前 月	30 日向 日	53 麻生 新	
8 北田 月	31 笹田 日	54 小倉 新	
9 けやき台 月	32 レークセンター 日	55 佐柿 新	
10 佐田 月	33 早瀬 日	56 吉右エ門さん家 新	
11 佐田南 月	34 久々子西 日	57 中寺 新	
12 織田神社 月	35 久々子東 日	58 興道寺 新	
13 太田 月	36 松原 日	59 消防署南 新	
14 東美浜駅 月	37 洪水山 日		
15 吉右エ門さん家 月	38 和田 日		
16 山上 月	39 木野 日		
17 坂尻 月	40 金山 日		
18 Aコープ 月日新	41 久保口 日		
19 河原市 月日新	42 町民広場 新		
20 せせらぎ保育園 月日新	43 矢筈 新		
21 はあとびあ 月日新	44 新庄 新		
22 美浜町役場 月日新	45 横谷 新		
23 美浜駅口 月日新	46 雲谷 新		

予約便バス停留所			
101 寄積 新			
102 国吉口 新			
103 美浜中学校 月日新			
104 旧道河原市 日新			
105 旧道南市 日新			
106 旧道郷市 日新			
107 でんでんむしの家 日新			
108 久保会館 日新			
109 こるば 新			
110 気山南 日			
111 新南郷特別児童養護施設 丹日新			
112 日向東 日			
113 日向西 日			
114 日向漁協前 日			
115 北西郷公民館 日			
116 早瀬漁港 日			
117 勤労者センター 日			
118 洪水山北 日			
119 栄 日			
120 山上東 日			
121 北田集会所 日			
122 ダイヤ浜 日			
123 水晶浜 日			
124 竹波北 日			

※丹、日、新で停車する路線又は予約便の異降地として指定できる路線を表示しています。

※ご利用の際は予め時刻表をご確認下さい。

・運賃

運賃は、300円（大人）の均一料金です。定期券、回数券もあります。

・車両等

マイクロバス 1 台、ワゴン車 2 台で運行しています。



マイクロバス



ワゴン車

・バス乗り場

主要なバス停には屋根・ベンチがあります。またAコープ、レイクヒルズ美方病院等は、敷地内にバスが乗り入れています。



竹波バス停



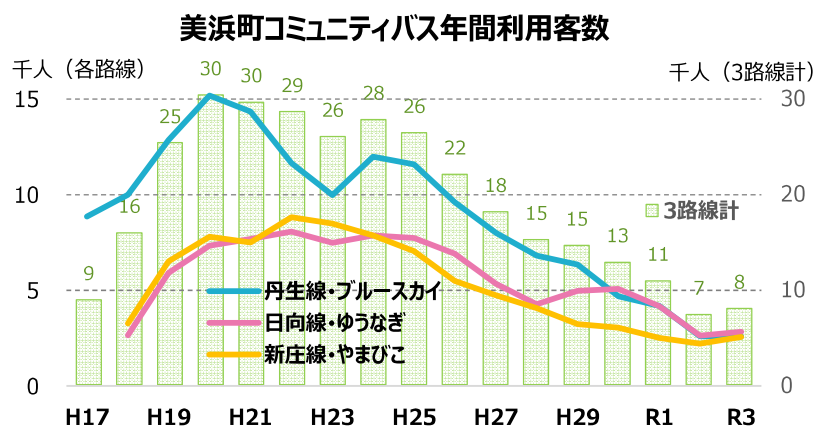
太田区休憩所



Aコープバス停

2) 利用状況

●美浜町コミュニティバスの利用客数は、3 路線ともに減少傾向が続いており、各路線で年間 3 千人以下（1 日平均 10 人未満）となっています。





## (5) タクシー営業所

- 町内には、タクシー会社（福井県タクシー協会会員事業者）が2社あり、町の中心エリアに営業所が立地しています。いずれも車両数は十数台であり、ジャンボタクシーもあります。
- 美浜駅前には、タクシー車両が待機しています。
- タクシーでの美浜町内周遊プランとして、時間定額制の「ハートフル観光タクシー」もあります。

会社名	車両数	ジャンボ
美浜自動車(株)	10	1
(株)オオギ観光タクシー	11	2

福井県タクシー協会資料より



美浜駅前タクシー乗り場

とってもお得!

# ハートフル観光タクシー

ご利用を希望される方は下記のタクシー会社にお申し出下さい。

美浜タクシー TEL 0770-32-1133      オオギ観光タクシー TEL 0770-32-6363

2時間コース(90分)  
 ○ 美浜駅ーレインボーラインー五湖の統一美浜駅  
 3時間コース(90分)  
 ○ 美浜駅ー千鳥池ー磐梯園古城歴史資料館ーレインボーラインー美浜駅  
 ※ ほかにも、たくさんの観光スポットや観光コースがありますので、お気軽にご相談ください。

○ 料金表 (1台あたりの料金)

時間 コース)	普通タクシー(4人まで)		ジャンボタクシー(9人まで)	
	通常料金	特別料金	通常料金	特別料金
1 時間	5,320円	5,000円	9,360円	8,000円
2 時間	12,640円	10,000円	16,720円	12,000円
3 時間	18,960円	15,000円	25,080円	18,000円
4 時間	25,280円	20,000円	33,440円	24,000円
5 時間	31,600円	25,000円	41,800円	30,000円
6 時間	37,920円	30,000円	50,160円	36,000円

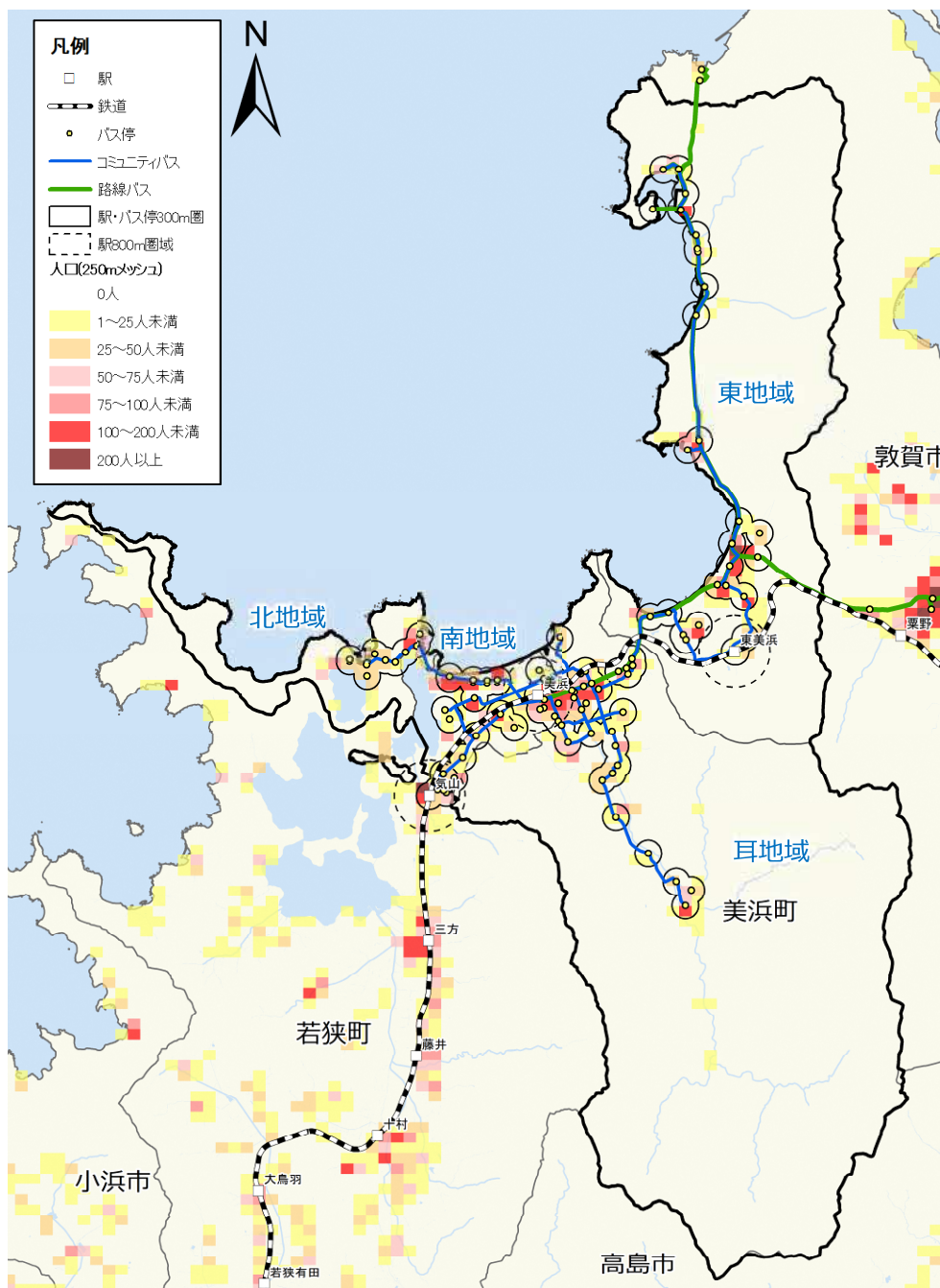
・美浜町内での営業に及び距離(20km範囲内)に限ります。  
 ・料内での乗降はご遠慮ください。  
 ・入場料等は、別途料金となります。  
 ・1時間コースに30分以上乗降した場合は、2時間料金となります。  
 ・ジャンボタクシーは予約制ですので、事前にご確認ください。  
 ・観光コース等については、お気軽にご相談ください。

HB1.2.1

### 3-4. 公共交通の利用圏域

#### ・人口分布と公共交通の利用圏域

●町内の人口は、中心エリアだけでなく各地区に広く分布していますが、鉄道・バスが各方面に運行しており、概ねカバーされています。ただし、これらで全てはカバーできておらず、部分的に公共交通の不便な箇所が散在している状況です。



国土数値情報（国勢調査 R2）より

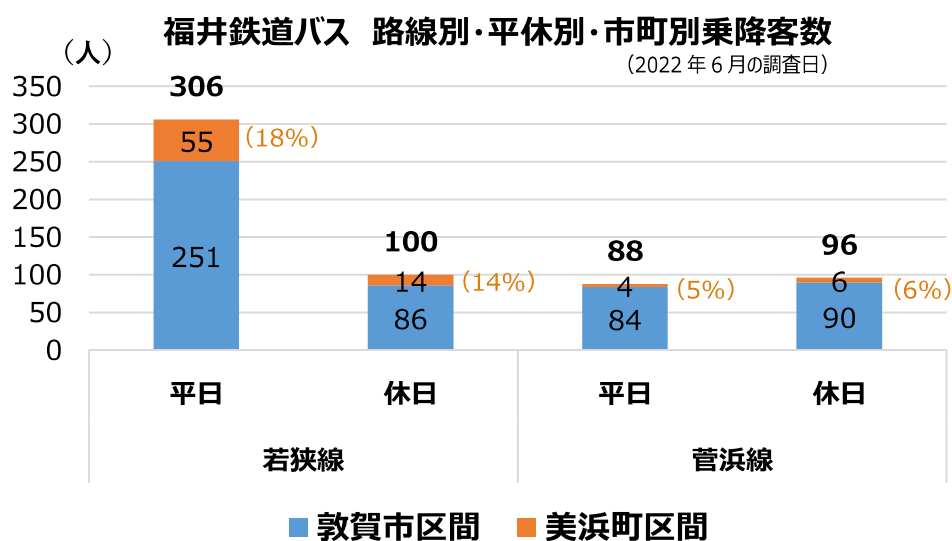


## 3-5. バス利用状況の詳細

### (1) 福井鉄道バスの利用状況

#### ・路線全体の利用状況

- 福井鉄道バスの路線全体の利用客数を平日・休日で見えた場合、若狭線は休日のほうが多く、菅浜線は平日のほうが多くなっています。
- バス停の利用客数（乗降計）は、いずれの路線も、全体のうち、敦賀市内のバス停の乗降客数が多数を占めており、美浜町内の乗降客数の割合は2割以下と小さい状況です。



数値は乗降計。( )内は美浜町区間の割合。

福井鉄道調査資料をもとに整理

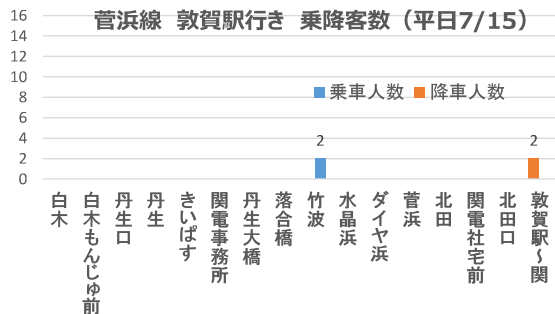
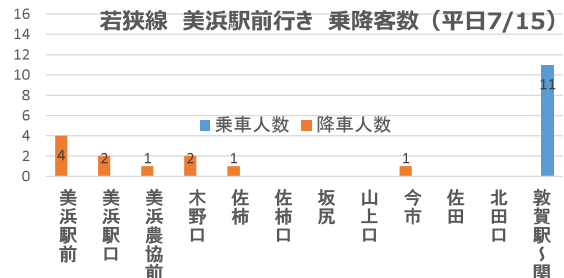
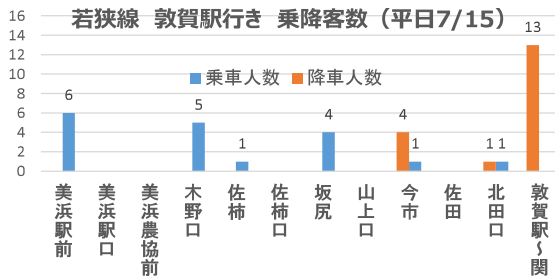
・美浜町内の乗降客の利用状況

- 2022年7月に美浜町区間で行った調査によれば、若狭線、菅浜線とも、町内のバス停で乗降する利用客数は1日30人以下であり、若狭線の休日、菅浜線の平日の美浜町内の利用は特に少なく10人未満です。
- いずれの路線も、美浜町内で乗降した利用客の大半が、敦賀市内との間を利用しており、美浜町内から乗り美浜町内で降りるような利用はほとんどありません。

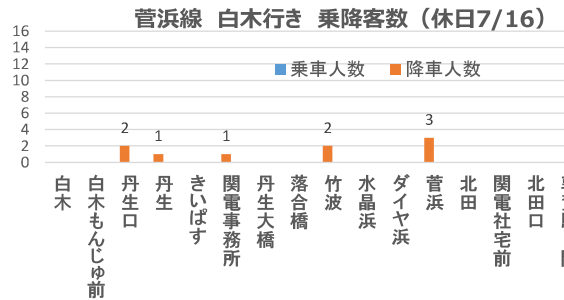
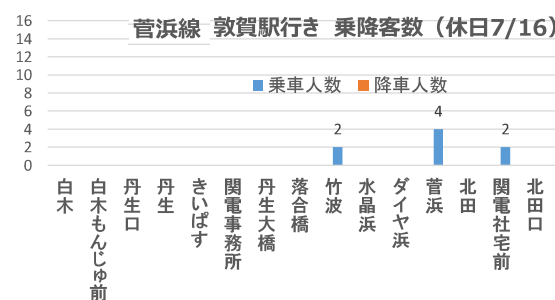
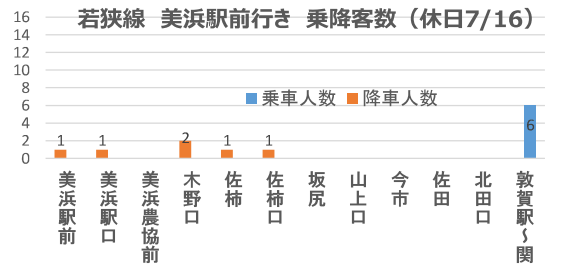
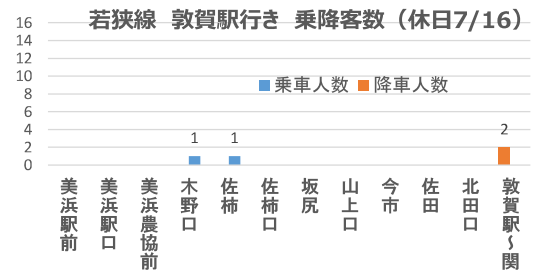
		2022年7月15日(金) 利用客数	16日(土) 利用客数
福鉄バス	若狭線	29 小中高生 4 高齢者 9 その他 16	8 小中高生 0 高齢者 3 その他 5
	菅浜線	2 小中高生・高齢者 0 その他 2	17 小中高生 0 高齢者 1 その他 16

\*美浜町内で乗車または降車した利用客を調査。属性の内訳は、目視判断。  
(調査：八千代エンジニアリング(株))

乗降バス停(美浜町内で乗降した利用客についての調査)



(菅浜線 白木行き(平日7/15) 利用なし)

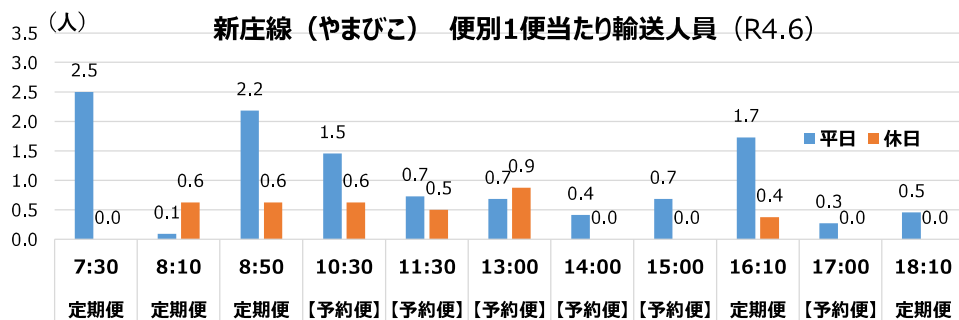
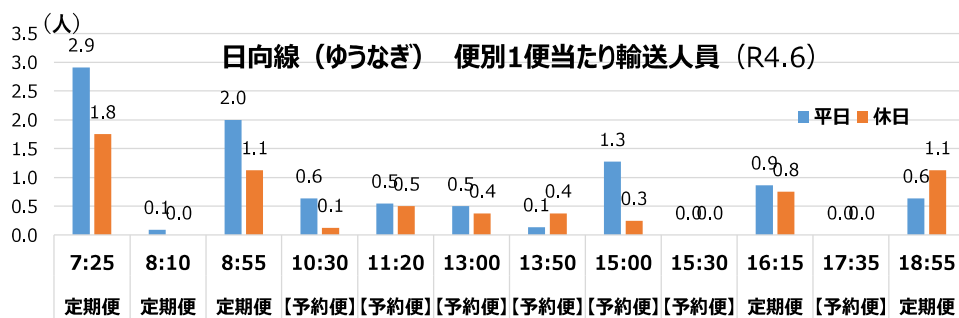
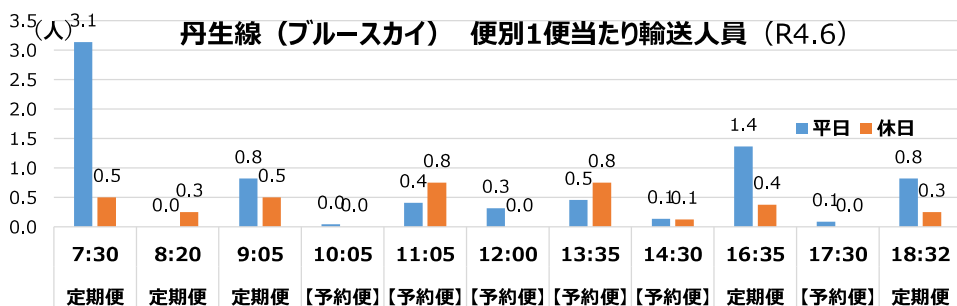


バス利用客アンケートと合わせて行った乗降調査より

## (2) 美浜町コミュニティバスの利用状況

### ・各路線の利用状況

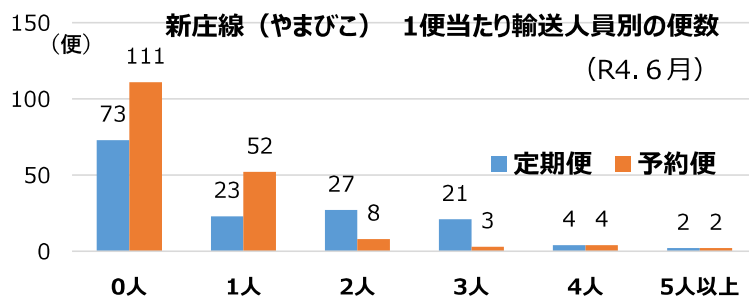
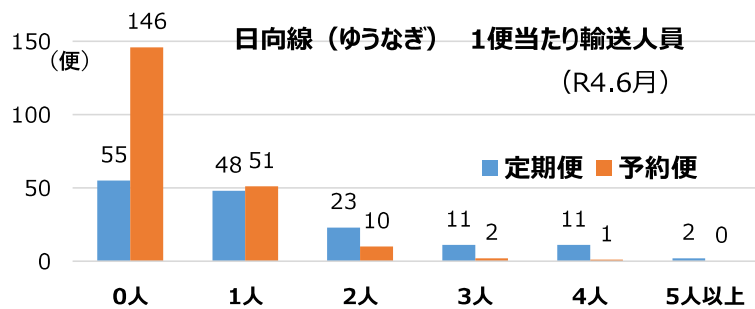
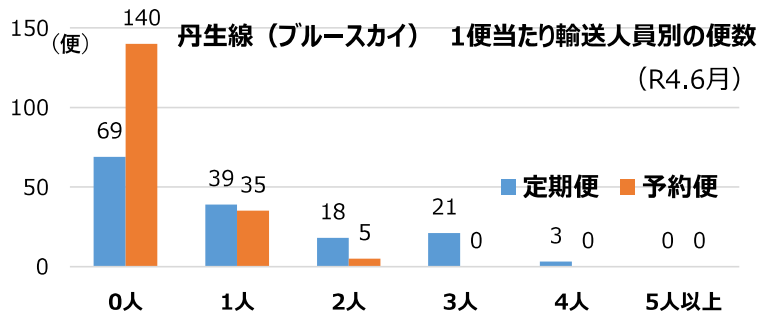
- 便ごとの利用客数は、朝夕の通勤・通学時間帯の定期便が比較的多くなっています。ただし、いずれも1便当たりの利用客数は概ね3人以下で少ない状況です。特に、昼間の予約便は少なく、1便（時刻表で予定した便）当たりの利用客数は1人未満の便が大半です。
- 休日は、朝夕を含め利用が少なく、いずれの便も2人以下となっています。



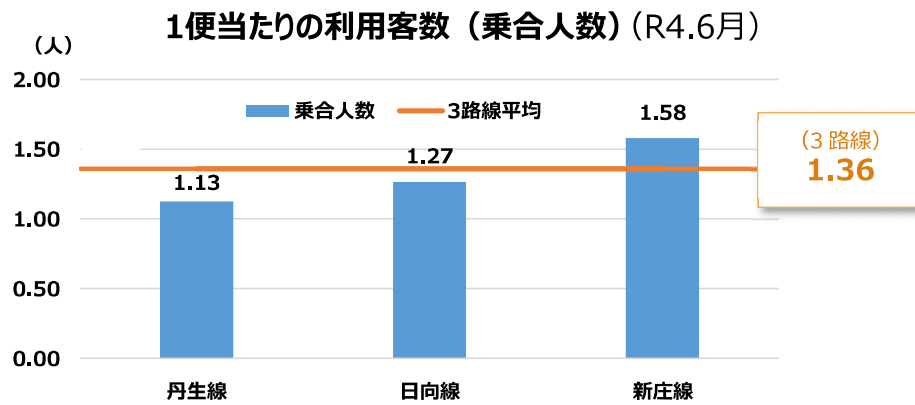
（予約がなく利用されなかった便は、0人として計上）

## ・利用客数別の便数

- 各路線の利用客数別の便数をみると、いずれの路線も、0人（利用客なし）の便が最も多くなっており、特に「予約便」は、利用（予約）のなかった便がきわめて多い状況です。
- 利用のあった便でも、利用客が1人だけ乗車していた便が多く、5人以上が乗っていた便は、全路線の1か月計で数便のみです。



- 各路線の予約便で、実際に利用（予約）があり運行した便について、1便当たりの利用客数（乗合人数）をみると、1人しか乗っていない便が大半のため、いずれの便も平均2人を下回っている状況です。





# III

## 町民等の外出状況・意識等

町民の外出状況や利用交通手段の選択の実態・意識、公共交通全体に関わる改善に向けた着眼点等を把握するため、町民やバス利用客へのアンケートを行いました。以下に結果の要点を示します。

### 1. 町民へのアンケート

#### 1-1. 調査概要

項目	概要
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	2022年8月～9月
調査対象	美浜町民1,000人（65歳以上を無作為抽出）
回答者数	522人（回答率：52%）

## 1-2. 調査結果の概要

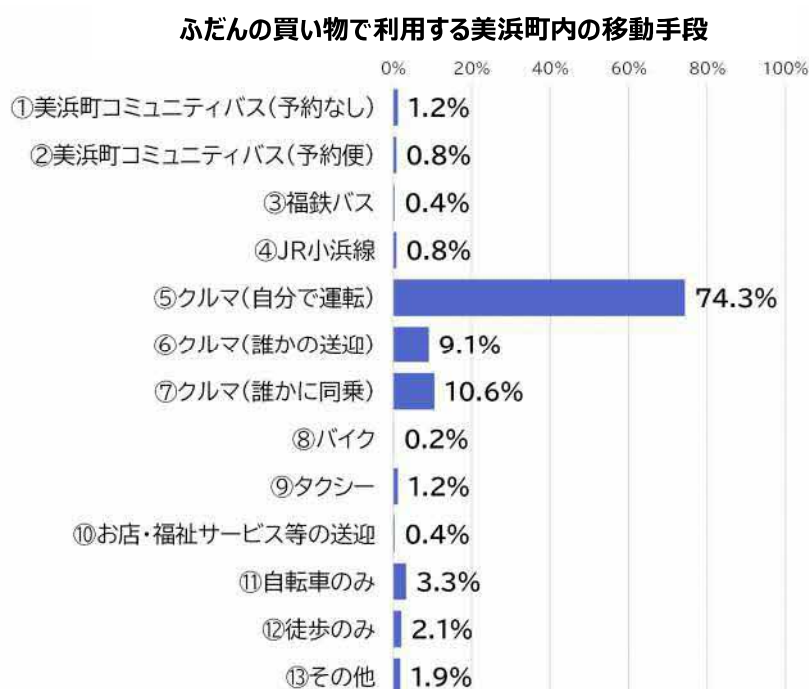
### (1) 外出先と交通手段

#### ・ふだんの買い物

- 日々の買い物では、本町の中心エリアに立地する店舗に出かける人が多数を占めています。一方、敦賀市で日常的な買い物をする人も多くみられます。



- 買い物の移動手段はクルマが突出して多く、中でも自分で運転する人が全体の7割以上を占めています。この調査は高齢者が対象ですが、公共交通を使う人はきわめて少ないのが現状です。

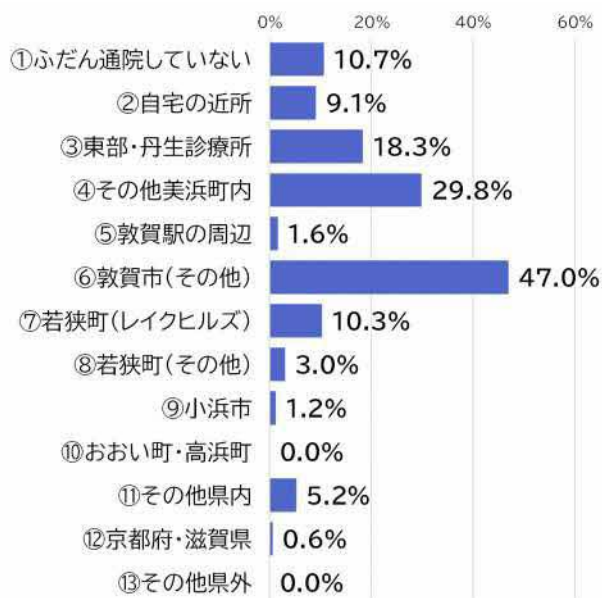




## ・ふだんの通院

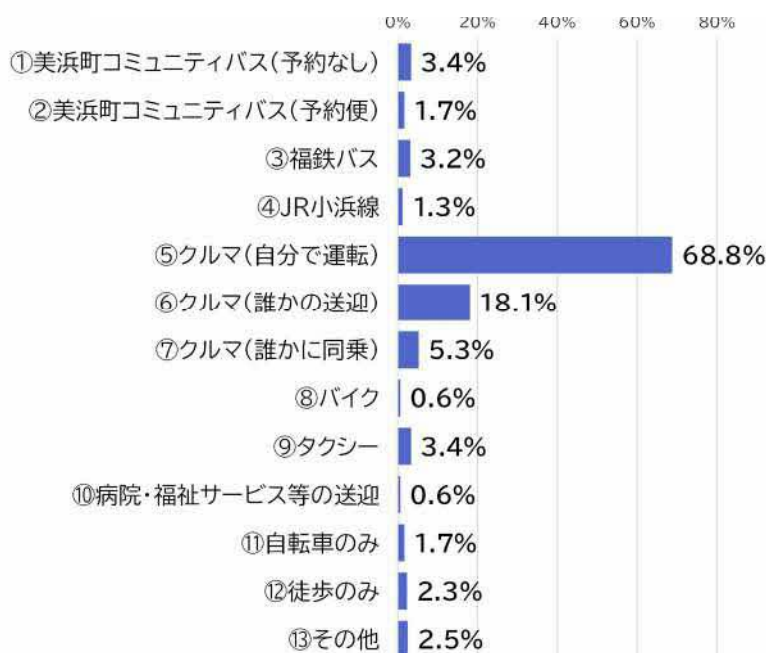
- 通院では、美浜町内の診療所だけでなく、敦賀市の病院が多く利用されています。町境に立地するレイクヒルズ美方病院の利用もあります。

ふだんの通院先



- 通院でも、移動手段はクルマが突出して多く、中でも自分で運転する人が多数を占めています。ただし、買い物と比べ、誰かの送迎によるクルマで通院する人がやや多くなっています。買い物同様、公共交通で通院する人は少ない状況です。

ふだんの通院で利用する美浜町内の移動手段



## (2) 公共交通の利用頻度

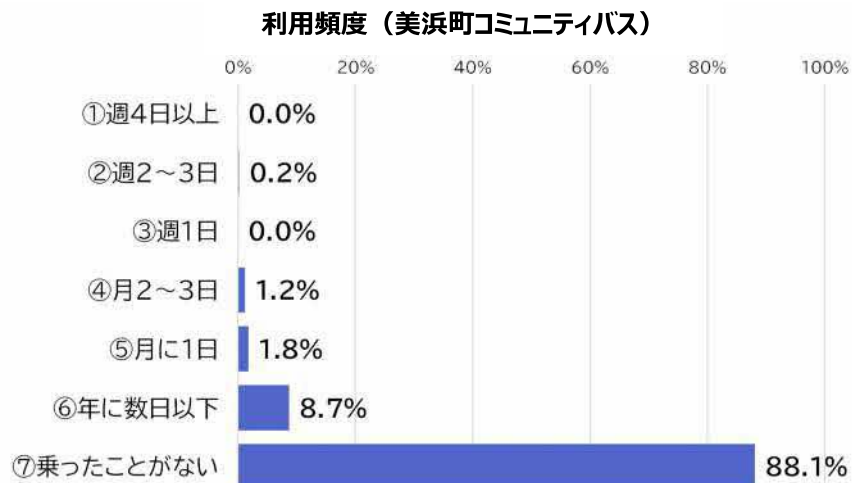
### ・小浜線

●小浜線の利用頻度が、月に1日以上という人は計1割以下であり、年に数日以下、乗ったことがないという人が計9割程度を占めています。ただし、後に示すバスやタクシーと比べ、年に数日以下の頻度で乗るという人が多い状況です。



### ・美浜町コミュニティバス

●この調査では、美浜町コミュニティバスの利用頻度が、月に1日以上という回答者はわずかであり、年に数日以下または乗ったことがないという人がほとんどです。



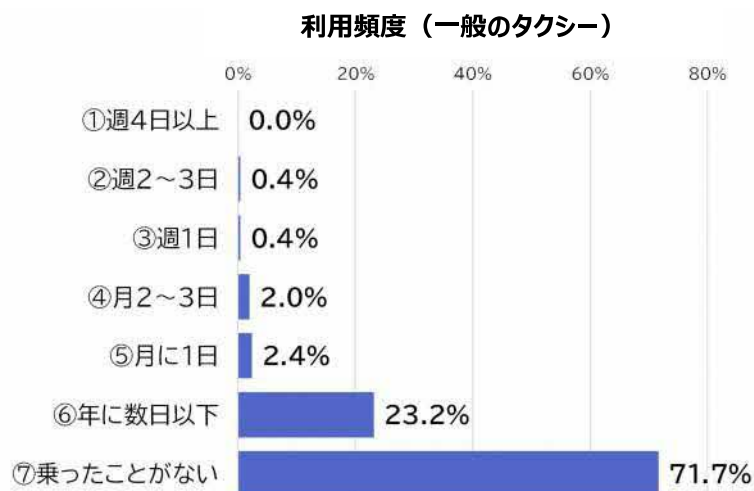
### ・福井鉄道バス(美浜町内)

●この調査では、福井鉄道バスの利用頻度も、月に1日以上という回答者はわずかであり、年に数日以下または乗ったことがないという人がほとんどです。



### ・一般のタクシー(美浜町内)

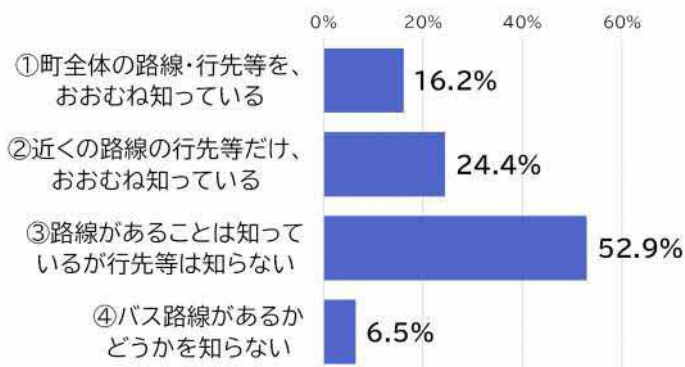
●本町では、タクシーの利用頻度も少なく、月に1回以上という人は計1割以下です。



### (3) 美浜町内のバスの認知状況

●町内のバス（福井鉄道バス、コミュニティバス）の全体または近くの路線の行先だけを知っている人は計4割程度です。一方、計6割程度の人が、バスのことをよく知らないのが現状です。

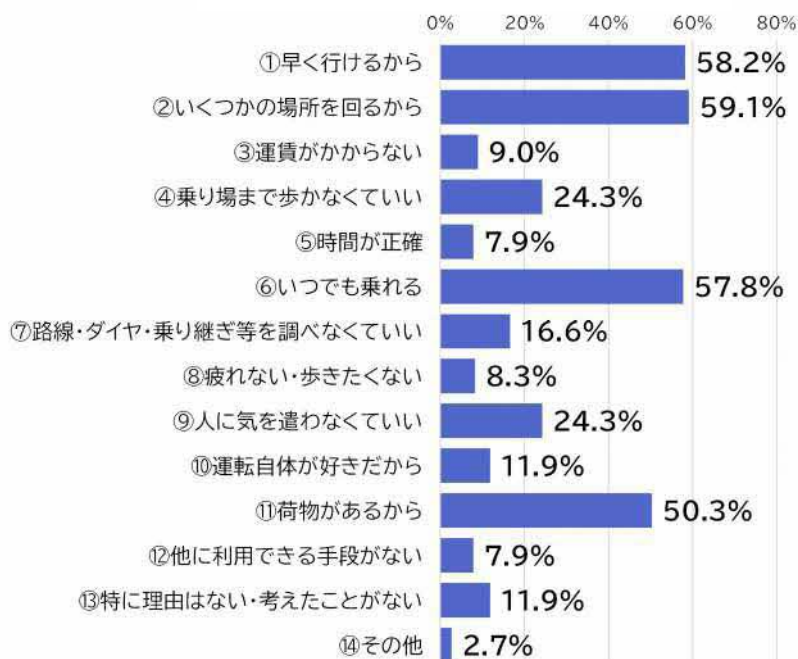
美浜町内のバスの認知状況



### (4) クルマを使う人の理由

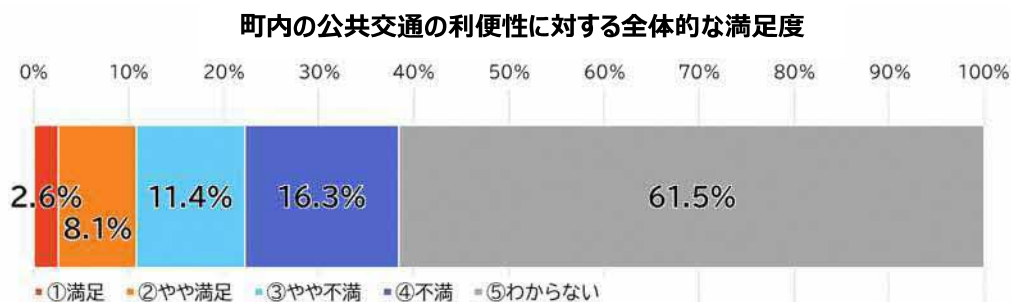
●主にクルマを使う人の理由は、早く行ける点、いつでも乗れる、いくつかの場所を回るという点、荷物がある際の楽しさの点等が多くなっています。いずれも、便利な面や楽な面からクルマを志向している状況です。

主にクルマを使う理由



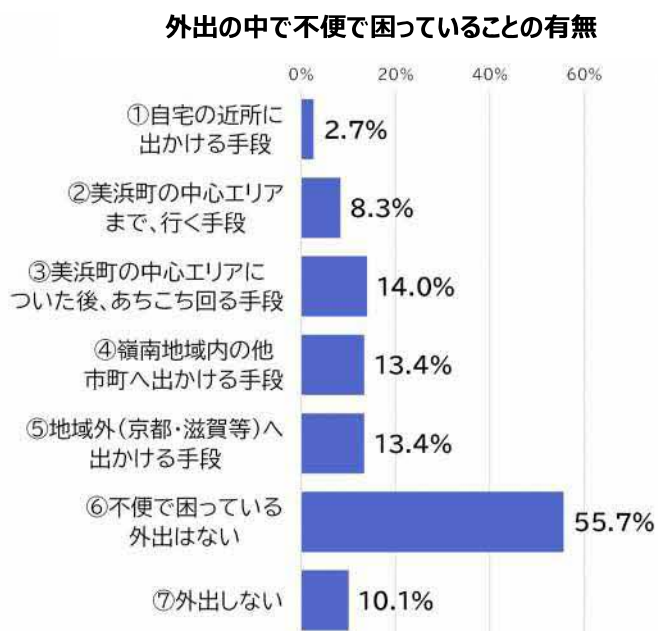
## (5) 町内の公共交通の全体的な満足度

●本町の公共交通を不満と感じる人が計3割弱であり満足な人を上まわっています。ただし、(乗らないので)満足かどうか分からないという人が6割程度を占めていることに着目されます。



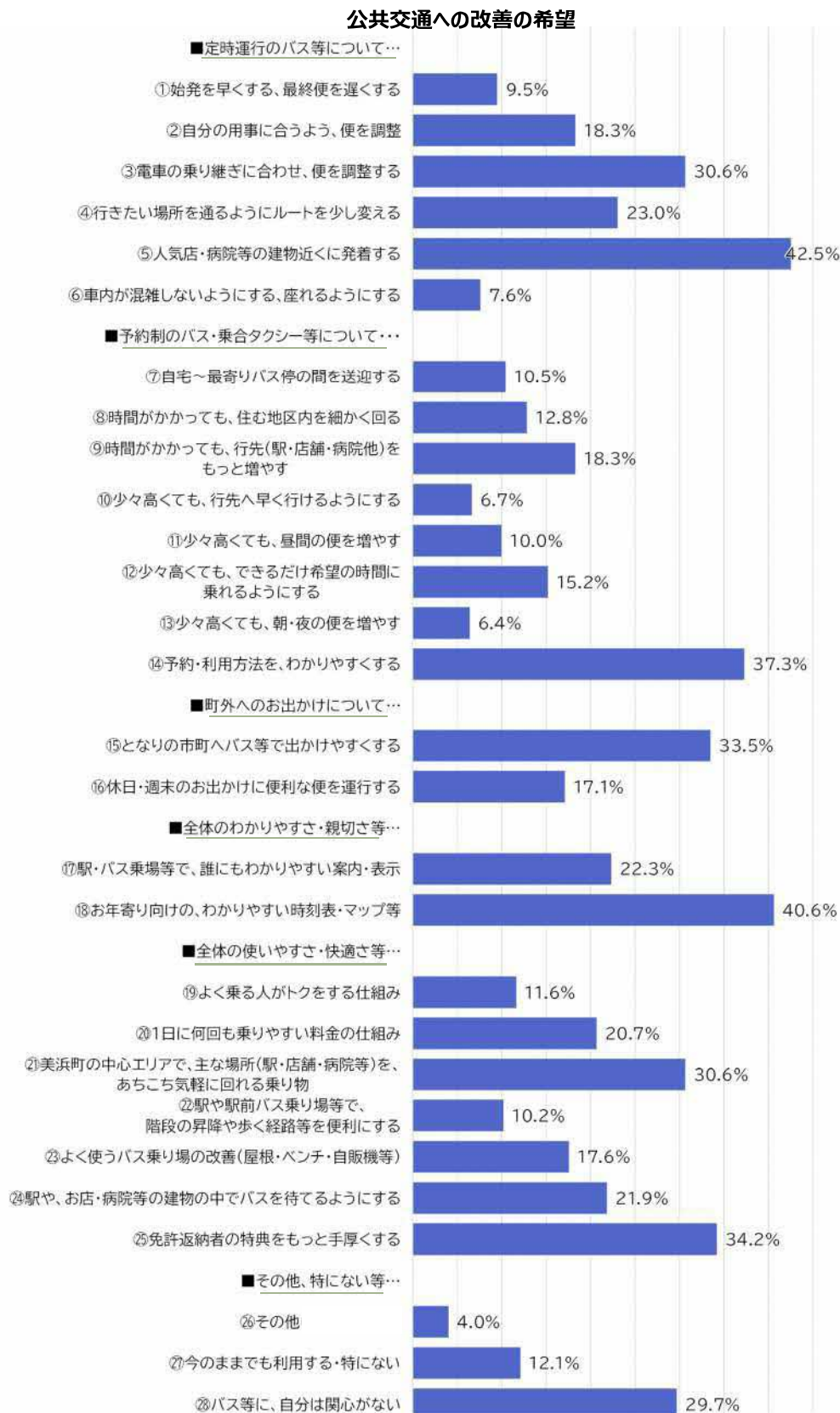
## (6) 外出での困り事の有無

●外出について不便で困っていることはないという人が多数を占めています。困り事のある人の中では、町の中心エリアでの回遊、嶺南の他市町や他地域への外出が比較的多く、町の中心エリアまで行く手段の困り事は比較的少ない状況です。



## (7) 公共交通への改善の希望

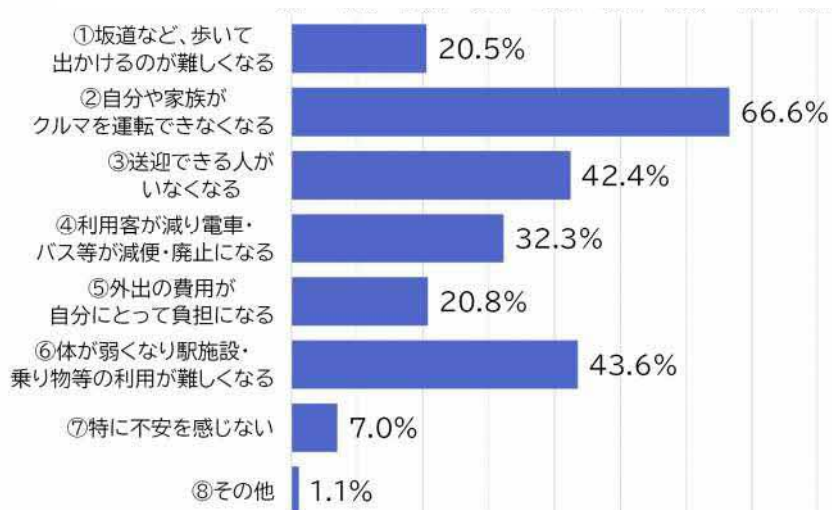
●公共交通への改善の希望は、店舗・病院等の建物近くに発着する、わかりやすい時刻表・マップ、予約・利用方法を分かりやすくする、免許返納者への特典を手厚くする、隣の市町へ出かけやすくする等の回答が多くなっています。



## (8) 将来についての不安

- 市民の多くがクルマ中心の外出スタイルであり、困り事の無い人が大半ですが、将来については、運転できなくなることに不安を感じる人が最も多く、次いで、駅・乗り物の利用が難しくなること、送迎する人がいなくなることに不安を感じる人が多くなっています。

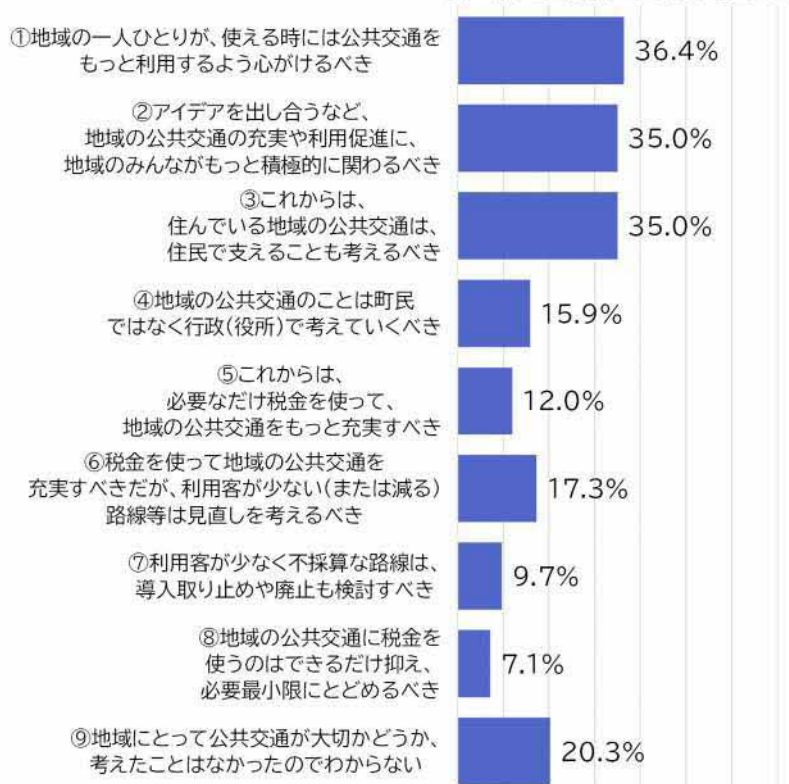
将来の交通手段について不安に感じる事



## (9) 美浜町の公共交通に対する考え

- もっと利用するよう心がけるべき、地域が積極的に関わるべき、住民で支えることも考えるべきとの回答が比較的多い一方、行政で考えるべき、利用客が少ない路線は見直すべきとの回答もあります。また、これまで考えたことがなかったという回答も2割程度あります。

美浜町の公共交通に対する考え



## 2. 町内のバス利用客へのアンケート

### 2-1. 調査概要

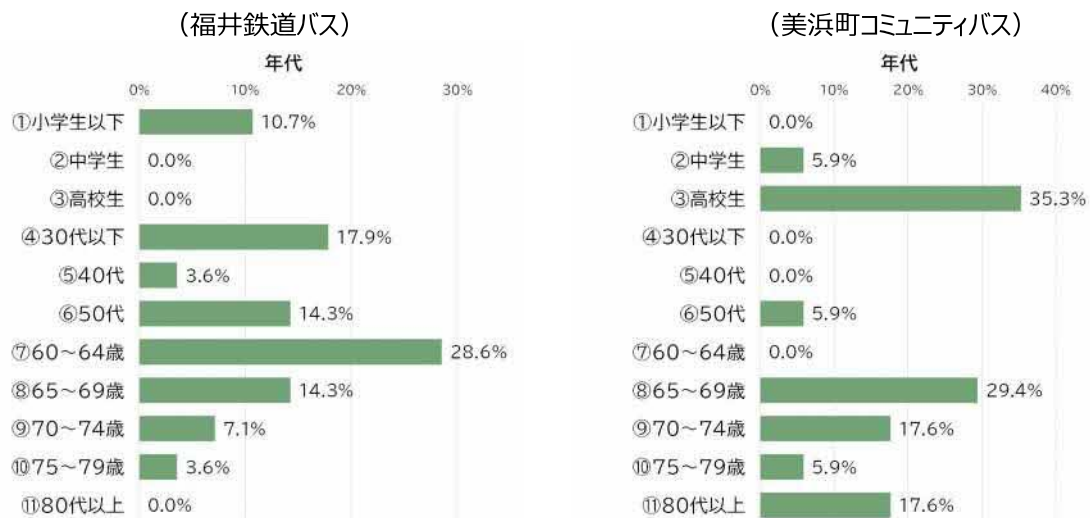
項目	概要
調査方法	車内配布・回収、据え置き・郵送回収
調査時期	2022年7月～8月
調査対象	福井鉄道バス（美浜町区間）及び美浜町コミュニティバスの利用客
回答者数	福井鉄道バス28人、美浜町コミュニティバス20人

### 2-2. 調査結果の概要

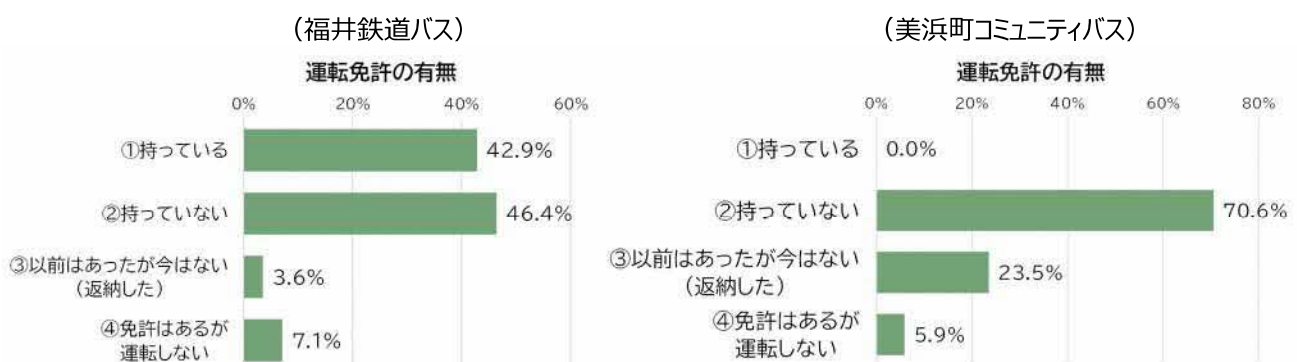
\*回答者が少数のため傾向のみ把握

#### (1) 利用客の状況

- 福井鉄道バスの利用客は、高齢者が中心であるものの各年代の利用があるのに対し、コミュニティバスの利用客は、高校生と高齢者がほとんどです。



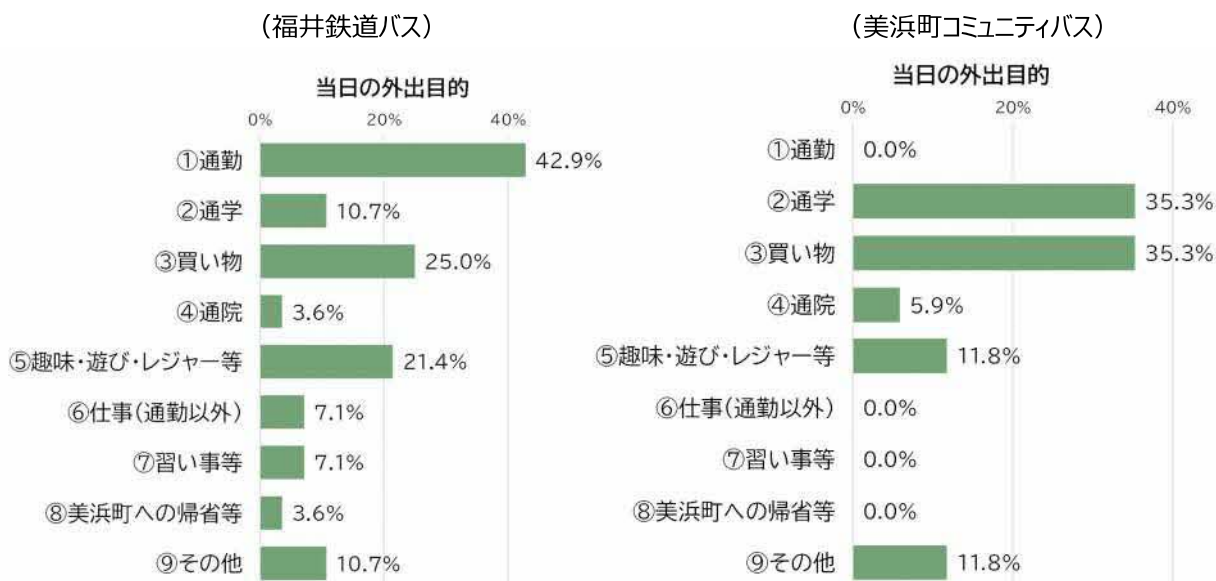
- 福井鉄道バスの利用客は、運転免許を持っている人、持っていない人がそれぞれいるのに対し、コミュニティバスの利用客は、免許を持っていない人または運転しない人のみです。





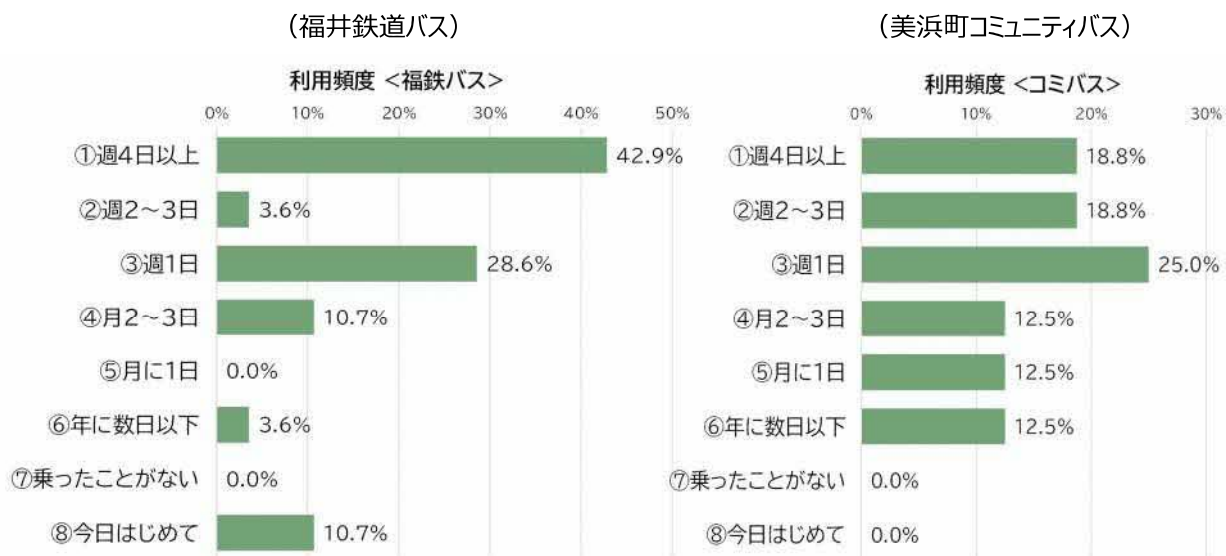
## (2) バス利用客の外出目的

●福井鉄道バスは、通勤・通学、買い物、趣味・遊び・レジャーなど、多様な目的で利用されています。一方、コミュニティバスは、通学と買い物が多くを占めています。なお、福井鉄道バスの利用客の行先は、ほとんどが敦賀市です。コミュニティバスの利用客の行先はバス停のある場所（美方高校、A コープ等）だけでなく、バス停から離れた店舗（ゲンキー、クスリのアオキ等）まで行く人もいます。



## (3) バス利用客の利用頻度

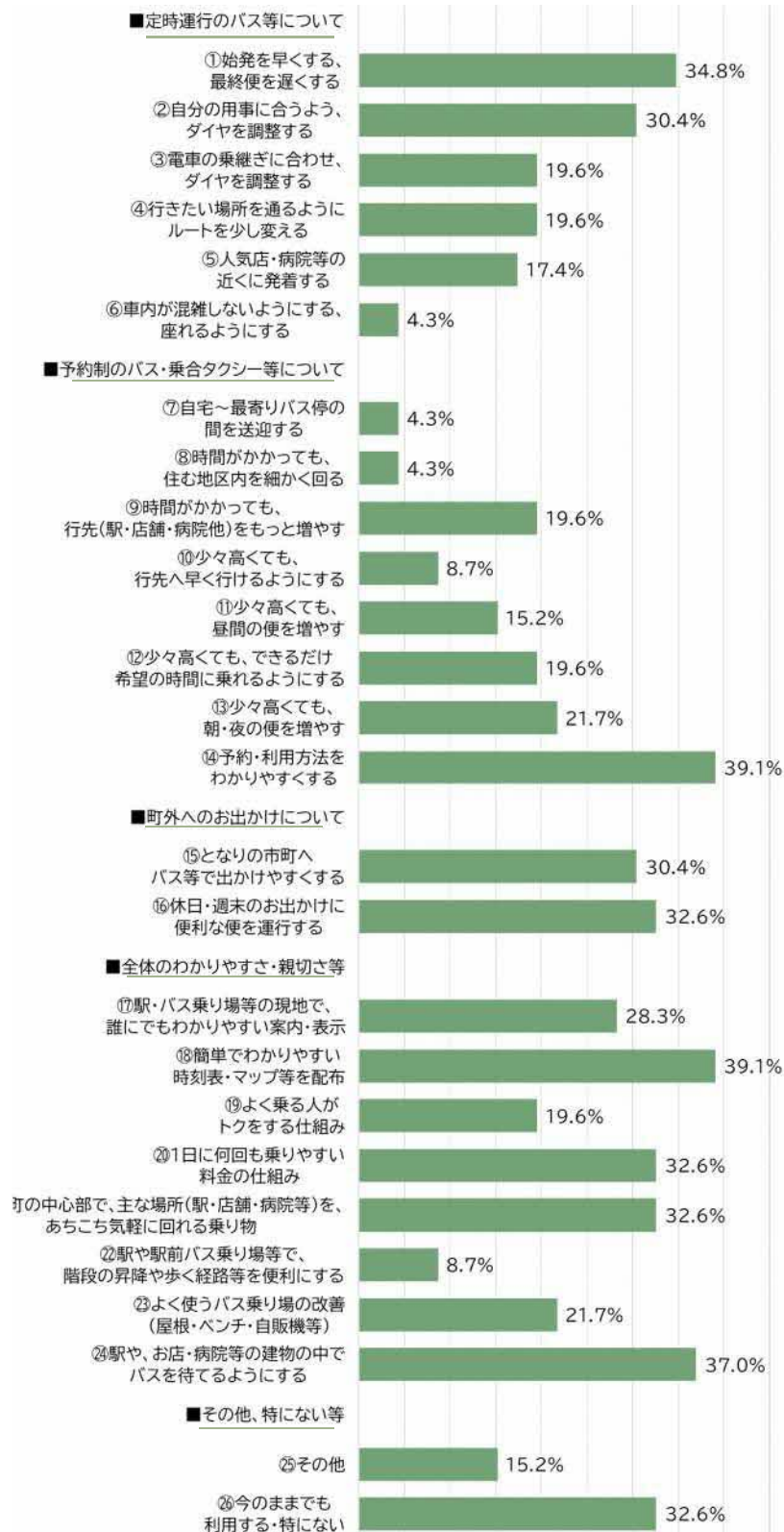
●福井鉄道バスはコミュニティバスと比べ、利用頻度の高い利用客が多くなっています。なお、いずれも、決まったバスにしか乗らない利用客が大半です。



#### (4) バス等の改善の希望

●バス等の改善の希望については、始発・最終便の時刻、予約・利用方法のわかりやすさ、わかりやすい時刻表・マップ、駅や店舗の中で待てるようにすること、現地でのわかりやすい案内・表示等が多い一方、今のままでも利用するとの回答も多くなっています。

どのように改善すれば、もっと美浜町の公共交通を利用するか（全体）



# IV

## 今後に向けた課題

### 1. 美浜町の現状・問題等の要点

地域・公共交通に関する基礎調査を行った結果から、本町の現状・問題等の要点は以下のように整理されます。

#### 《地域の現状》

- 人口減少・高齢化が進み、一人暮らし・高齢者だけの世帯等が増える可能性があります。したがって、外出手段の確保が今後ますます重要となります。
- 本町の居住地は、小浜線沿線の中心エリアに集まる一方、町域に広く点在しており、すべてを鉄道・路線バス等でカバーすることは困難な状況です。
- 町内で利用の多い店舗、医療機関等は、中心エリア等に立地しています。また、町境に病院、高校が立地しています。さらに、敦賀市へ日常的に出かける町民も多くなっています。
- 町民の大半が、クルマ中心の外出スタイルとなっており、公共交通の利用客の減少だけでなく、様々な分野の視点での危惧もあります。

#### 《本町がめざす姿、まちづくり》

- 本町では、最上位計画である総合振興計画において、まちの将来像をめざし、公共交通分野はネットワークの維持・最適化に取り組むこととしています。また、関連計画において、拠点を公共交通がつなぐ都市づくり、にぎわいある拠点づくりをめざしています。公共交通は、多様な分野の取り組みに寄与していくことが求められます。

#### 《公共交通の現状》

- 本町では、鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーなど、ネットワークを構成する公共交通は概ねそろっており、一部を除き各地区は概ねカバーされているため、今後これらを確保・持続していくことが重要となります。ただし、町の中心エリアの回遊や、嶺南地域の周遊のための手段は十分ではない状況です。
- 鉄道、バスは、いずれの路線も経年的に利用客が大きく減少しており、また、全国的に乗務員不足が深刻となっており、運営面で厳しい状況にあります。
- 鉄道（小浜線）の利用客のほとんどは、通学の高校生です。
- 路線バス（福井鉄道バス）は、いずれの路線も利用客が少なく、菅浜線の利用客の減少が顕著です。コミュニティバスは、いずれの路線も利用客が減少しており、利用客は決まった場所への利用が多く、乗降のないバス停・区間が多い、利用のない便が多い、乗合人数が少ないなど、特に昼間の予約便が非効率な状況となっています。
- その他、自宅等からバス停まで歩く負担、遠回りとなっているバスルート、駅・店舗等でのバス情

報や待ち環境、乗り場の案内・出発前の情報、駅ホームの階段の負担、来訪客への予約便の仕組みの情報伝達など、使いやすさ・わかりやすさの面で改善が必要な状況です。

### 《町民・利用客の状況・意識等》

- 町民はクルマ中心の外出スタイルとなっており、高齢者でも外出手段は、ほとんどクルマで、送迎・同乗よりも、自分で運転する人が多くなっています。公共交通を利用する町民はきわめて少なく、歩く人も少ないのが現状です。
- バスは、町民の利用経験、路線等の認知度が低く、外出手段として定着していない状況です。公共交通全体に対し満足な人が少ない一方、乗らないのでよく分からないという人がきわめて多くなっており、バスを利用客も、決まった路線のみを利用している状況です。
- 外出で困り事のない人が多い中、“まちなかの回遊”、“公共交通をよく利用する人の利便性”、“便の調整”、“わかりやすさ”等を望む声が多くなっています。ただし、改善されても利用するかどうか分からないという人も多い状況です。
- バスの利用客からは、“始発・最終便”、“(予約便の) 予約・利用方法のわかりやすさ”、“わかりやすい時刻表・マップ”、“駅・店舗等で待つ環境”、“現地でのわかりやすさ”を望む声が多くなっています。

### 《参考：町民・関係者との意見交換・意見収集等》

上記の現状・問題等をより具体的に把握するため、下記の意見交換・意見収集等を行いました。

- 町民等との意見交換会（環境パートナーシップ会議委員の皆様、美方高校の生徒の皆様）
  - 公共交通事業者との個別の意見交換・意見収集（鉄道・バス・タクシーの各運行事業者）
  - 各部門関係者との個別の意見交換・意見収集（福祉・観光の関係団体、庁内の健康・福祉・観光・まちづくり・教育・地球環境・住民生活・公共交通の各部門）
- ・コロナ禍以前から利用客の減少が続き、また、乗務員や日常業務の人員不足・高齢化で、公共交通の運行事業者は厳しい運営状況にあります。
  - ・アンケート結果の通り、外出はクルマ中心で、公共交通を意識していない町民が多いのが現状です。クルマ志向が強く、高齢で運転できなくなってもクルマでの送迎等を考える人が大半です。
  - ・公共交通を利用する人は限られ、概ね満足されていますが、一部に学生等の改善希望があります。また、高齢者等がバス停まで歩く負荷が大きい箇所もあります。
  - ・バス利用客も、いつも乗る路線以外は、よくわからない状況です。コミバスの予約便は、町民に認知されていません。観光客にもわかりにくく、現地で初めて予約便のことに気づく状況です。
  - ・観光に関しては、公共交通だけでなく、魅力的なコンテンツとの連携が必要です。その他、種々の分野で、公共交通が連携・寄与できることがあります。これまでは、各分野の関係者、あるいは各公共交通事業者によって、個別の取り組みが行われてきました。

（\*これらの意見交換・意見収集の中で、今後に向けた具体的な意見・アイデア等も得られました。その内容を踏まえた上で、後述の本計画における今後の取り組みを定めました。）

## 2. 今後に向けた課題

地域・公共交通の現状や町民の外出等の実態・意識等を踏まえ、公共交通の今後に向けた課題・着眼点として以下が挙げられます。

### 課題① 人口、利用客が減少する中、概ねの形ができた公共交通ネットワークを将来まで持続することが必要。

- 公共交通の利用客の減少が続いており、さらに今後も人口減少が見込まれ、公共交通は厳しい運営状況にあります。そのような中、概ねのネットワークの構成ができていいる現在の公共交通について、例えばコミュニティバスの予約方式の見直しや効率化等により、地域の実情に見合った形で、将来にわたり確保し持続していくことが必要となります。

### 課題② 居住地や施設立地等の実情に応じた、日々の暮らしで使いやすい公共交通にすることが必要。

- 一人暮らしや高齢者夫婦の世帯が増える可能性があり、日々の外出手段の確保がますます重要となります。広く点在する居住地や、歩く負担が大きい地形など、地域の特徴に見合った効率的な方法で外出手段を確保することが必要です。また、町の中心エリアの駅、店舗等は離れて立地しており、これらを気軽にまわれるなど、高齢者や学生に限らず、日々の外出で便利に使える公共交通にしていくことが必要です。さらに、敦賀市等へ日常的に出かける町民も多く、その利便性を確保する必要があります。

### 課題③ 利用されない人や高齢者等にとって、さらにやさしく、わかりやすい公共交通にしてい

くことが必要。

- 時刻表・マップなど出発前の情報は、公共交通をあまり使わない人や高齢者等にとって難解で、また各社個別であり、特にコミュニティバスの予約便については、来訪客からも、わかりにくい・気づきにくいとの声があります。駅、店舗等の主要施設の現地における案内情報やバス待ち環境等を、高齢者や来訪者にとってさらにやさしくし、利用に対する抵抗感を軽減することが必要です。

### 課題④ 少しずつ、町民のクルマ中心の行動スタイルの変容を促し、公共交通への意識を高めていくことが必要。

- 本町ではクルマ中心の外出スタイルが続いてきたため、公共交通は、町民の利用頻度だけでなく認知度もきわめて低いのが現状であり、今後提供する公共交通がうまく使われるかどうかの危惧もあります。今後、高齢者、学生等に限らず、地域にとっての公共交通の大切さを町民に理解いた

き、過度なクルマ依存の見直し、地域のみんなで公共交通を支える意識を少しずつでも促していくことが必要です。

**課題⑤ 地域の拠点づくりや、にぎわいの創出に寄与する公共交通の取り組みが必要。**

- 本町の将来像の実現をめざし、「若狭美浜はまびより」のオープン、北陸新幹線の「敦賀開業」等の主要なプロジェクトや、観光・集客等に関する取り組みと連携しながら、公共交通による来訪や回遊・周遊を促す取り組みを行うことで、地域の拠点づくり、町のにぎわいの創出に貢献していくことが必要です。

# V

## 美浜町の公共交通がめざす姿と今後の方向性

本町の課題と将来に向けたまちづくりを踏まえ、以下を美浜町の地域公共交通がめざす姿（基本理念）及び今後の取り組みの方向性（基本方針）とします。

### ■ 美浜町の公共交通がめざす姿（基本理念）

だれもが安心して暮らすことができる交通手段を確保するとともに、まちの活力を生み、地域で守り育てる持続可能な公共交通をめざします。

高齢者・学生等だけでなく、だれもが利用しやすい公共交通サービスを、地域の実情に見合った形で確保するとともに、地域の公共交通を地域で守る意識を育み、公共交通を使った町民の日々の外出、観光客等の来訪・回遊を促すことで、まちの賑わいに寄与し、将来にわたって持続する公共交通をめざします。

### ■ 今後に向けた取り組みの方向性（基本方針）

めざす姿（基本理念）の実現に向け、本町の地域公共交通は、今後、5つの方向性（基本方針）にもとづき、取り組んでいきます。

#### 方向性 1

地域の実情に見合った形で、ネットワークを構成する公共交通を確保・持続する。

美浜町の公共交通は、将来にわたって持続し、日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。そのため、基軸となる鉄道、路線バス、町内の移動を支えるコミュニティバスなど、公共交通ネットワークを構成する移動手段を、地域の実情に応じて効率的に確保する方策に取り組みます。

## 方向性 2 町民の日々の外出に便利な公共交通サービスを提供する。

町内各地区に住む人が日々の外出で便利に利用できる公共交通サービスをめざします。そのため、居住地等をカバー（補完）し町の中心エリアでの移動を便利にするとともに、敦賀方面等への外出を便利にする方策に取り組みます。

## 方向性 3 わかりやすく、人にやさしい公共交通の利用環境を提供する。

あまり使わない人や高齢者、町外からの来訪客等にもわかりやすく、人にやさしい公共交通をめざします。そのため、本町の公共交通全体のわかりやすさを向上します。また、人にやさしくだれもが使いやすい環境づくりに取り組みます。

## 方向性 4 クルマ中心の行動スタイルの変容を促すとともに、公共交通への意識を育む。

高齢者や学生だけでなく、町民全体が、少しずつでもクルマ中心の行動スタイルを変容するよう促すとともに、地域の公共交通を地域で守る意識を醸成します。そのため、町としてモビリティ・マネジメント（考えたり体験したりする機会を提供し、意識・行動の変容を少しずつ促し定着させる取り組み）に挑戦します。

## 方向性 5 地域の拠点づくり・にぎわい創出と連携した取り組みを行う。

本町の拠点づくり、まちのにぎわいの創出に貢献する公共交通をめざします。そのため、観光・集客等の施策と公共交通が連携し、本町への来訪や回遊・周遊に便利なサービスの提供や、公共交通を使って本町を訪れてみたいくなるような企画等に取り組みます。

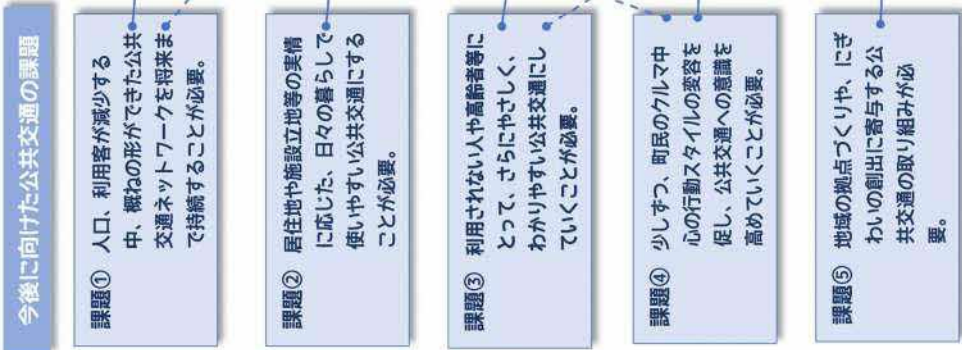


〔公共交通の課題と、めざす姿・方向性の対応〕

■ 美浜町の公共交通がめざす姿（基本理念）

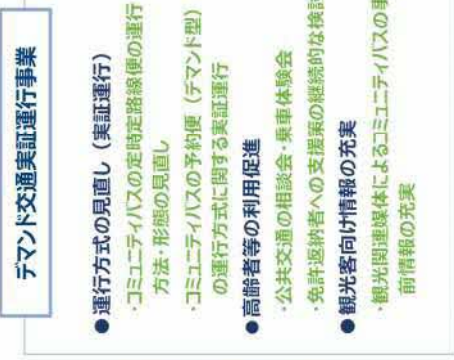
だれもが安心して暮らすことができる交通手段を確保するとともに、まちの活力を生み、地域で守り育てる持続可能な公共交通をめざします。

■ 今後に向けた取り組みの方向性（基本方針）



みんなが使って、将来にわたり持続可能な公共交通へ

（重点施策）



## 1. 取り組みの概要

本計画の取り組みの方向性（基本方針）に基づいた個々の取り組み（事業）について以下に示します。各事業における細目の具体的な実施内容・方法、実施体制について、本計画策定以降も、関係者、町民、運行事業者等との意見交換や調整を行いながら取り組んでいきます。

### 方向性 1

地域の実情に見合った形で、ネットワークを構成する公共交通を確保・持続する。

### 取り組み 1-1

#### 鉄道・広域路線バスの運行の持続と利用確保

本町の鉄道・路線バスは、利用客数の減少が続いており、人口減少、少子・高齢化が進むことも見込まれる中、公共交通は、今後とも日々の暮らしやまちづくりを支えていくことが求められます。本町の公共交通はネットワークの構成が概ねできており、基軸となる鉄道、広域路線バスを将来にわたって確保する必要があります。

そのため、運行事業者と行政が連携し、効率的な運行方法の調整、補助事業の活用を検討しながら、現行の鉄道・広域路線バスの運行を持続するとともに、日常的な利用客を確保する方策に取り組んでいきます。

#### （鉄道・広域路線バスの運行の持続）

JR小浜線及び広域路線バス（福井鉄道バス若狭線・菅浜線）については、現在の運行を持続するとともに今後の道の駅「若狭美浜はまびより」のオープン、北陸新幹線敦賀開業等による利用動向を調査し、必要に応じてシーズン・曜日に応じた効率的な運行方法の調整を行います。広域路線バスについては、利用客を確保する種々の取り組みを行うとともに、運行事業者と沿線市町・県・国等が連携して「地域公共交通確保維持事業（幹線補助）」を活用しながら運行を持続し、今後の利用状況によっては行政による支援の方策や運行方法・形態見直しの可能性も含めた検討を行います。

#### （日常的な利用への助成）

通勤・通学など日常的な利用客を確保するため、美浜町や小浜線利用促進協議会が現在行っている「高等学校等生徒通学費助成」、JR小浜線の「新規定期利用助成」「回数乗車券助成」等の助成制度を継続します。

#### （交通機関相互の調整等）

通勤・通学時間帯の JR 小浜線・路線バスへの乗り継ぎの利便性を確保するため、高校生の通学の

状況やJR小浜線のダイヤ改正等に応じて、美浜町コミュニティバスのダイヤを定期的に調整します。また、平常時のダイヤの調整等や、運休や最終便の大幅な遅延等の際の交通機関相互の連携を図るため、情報伝達方法や事前の申し合わせ事項等について、本町の鉄道、バス、タクシー等の公共交通事業者が定期的に意見交換を行います（初期は町の呼びかけで意見交換の場を設け、その後は公共交通事業者により会合を行います）。

### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (市町・県・国が連携)	●	● (協議会等)	○

(●：取り組み主体    ○：連携・協力)

取り組み  
1-2

## 効率化のためのコミュニティバスの運行方式の見直し（\*実証運行）

美浜町コミュニティバスは、利用客が少なく、また減少が続いており、昼間等の便を予約制としていますが、運行した便の乗車人数が少ない現状にあり、町内各地区から中心エリアへの移動、中心エリア内での移動を将来にわたり担っていくには、持続可能な方式に見直す必要があります。

そのため、現行の定期便（定時定路線型）の運行方法・形態を一部見直すとともに、予約便（デマンド型）について、より効率的な方式への見直しを行います。

### （定時定路線便の運行方法・形態の見直し）

現行の朝夕の定期便（定時定路線型）は、通学等の固定客の利用があるものの、乗車人数はごく少数であり、また高校生の下校時間が日（試験・部活・夏休み等）によって異なり利用できない場合があるため、実態に応じた効率的な運行方法、状況によっては運行形態の見直しについて検討します。

### （予約便（デマンド型）の運行方式に関する実証運行）

コミュニティバスが、多くの人に利用され、乗合率が向上し、運行の効率化が図られることを目的として、現在の予約便（デマンド型）の方式では主要な場所のバス停・基本ルートとダイヤを設定しているのに対し、予約受付・配車の支援システム（AIの活用も検討）を試行的に導入し、運行ダイヤを定めず、効率的なルートを随時設定するフレキシブルなデマンド方式への見直しを行います。この方式とすることで、高校生等の予定に応じたより柔軟な対応も可能となります。

この取り組みについては、町が運行事業者の協力を得ながら「実証運行」を行い、結果を踏まえた適用性の検証を行います。

なお、コミュニティバスで使用する車両については、省エネルギーで地球環境に優しく、持続可能な町に貢献するEV（電気自動車）、FCバス（燃料電池バス）等が考えられるため、今後の更新時に検討します。

■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○		

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

## 方向性 2

町民の日々の外出に便利な公共交通サービスを提供する。

### 取り組み 2-1

#### 居住地をカバーするためのコミュニティバスの運行方式の見直し（\*実証運行）

本町の公共交通は、各地区の居住地を概ねカバーしていますが、一部、公共交通の利用が不便な箇所が散在しています。また、山地や海岸、湖が入り組んだ地形が多く、高齢者等が歩いて行くのが負担になる箇所もあり、これら全てを鉄道や路線バスでカバーするのは困難な状況にあります。

そこで、美浜町コミュニティバスの運行方式（デマンド型）を見直し、このような箇所に住む町民が、外出に便利に使える公共交通としていきます。

#### （予約便（デマンド型）の運行方式に関する実証運行）【再掲】

前述のコミュニティバス予約便の「実証運行」において、町域に広く薄く広がる居住地をカバーすることを目的として、予約・配車の支援システム（AIの活用も検討）を試行的に導入し、「居住地により近い場所」での乗降が可能で、随時、柔軟にルートを設定するデマンド方式への見直しを行います。

#### （中心エリアの主要施設への乗り入れ）

「実証運行」を行うコミュニティバス予約便について、町の中心エリア内での移動の利便性を向上するため、主な店舗、医療施設、道の駅「若狭美浜はまびより」等の敷地あるいは建物により近い場所に乗り入れるよう、町が施設関係者との調整を行います。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○	○ (施設関係者等)	

(●：取り組み主体　○：連携・協力)

### 取り組み 2-2

#### 多様なサービスの推進及び検討

鉄道、路線バス、コミュニティバス等を活用・補完する方策として、町民や来訪客にとって利用しやすく便利になるよう、バス、タクシー等の多様なサービスについて継続的に検討します。

#### （多様なサービスの検討）

現在、高齢者免許返納サービス、通学費助成等のほか、町内観光等に便利な「ハートフル観光タクシー」など、バス、タクシー等に関するサービスが提供されています。現在のサービスの活用を進め

るとともに、今後、キャッシュレス決済、予約アプリ、貸切利用、サブスクリプション（会員制定額乗り放題）など、他地域におけるトレンド、町民や来訪客のニーズを踏まえて公共事業者と町や観光関係者が意見交換しながら、種々の新規サービスも検討していきます。

なお、本町では現在、社会福祉協議会による買い物支援サービス「おでかけワゴン」や、店舗による無料送迎サービス等が行われており、すでに日常的に利用している町民がいることから、各サービスを活かすよう留意し、関係者から情報を得ながら連携を図っていきます。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○	●	○ (観光・福祉等)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

取り組み  
2-3

### 気軽に乗り降りできる料金等の仕組みの検討

美浜駅、町役場・なびあす、利用の多い店舗、医療施設等の主要施設は、町の中心エリアに立地していますが、歩いて行き来するには距離があります。また、敦賀市の店舗、病院へ日常系に出かける町民も多数いますが、これらの外出でバスを利用する町民は、きわめて少ないのが現状です。

そこで、町の中心エリアや敦賀市方面への外出、あるいは町の中心エリア内での回遊で、バス等を気軽に使えるようにし、利用の動機づけとするため、料金の仕組み等について検討します。

#### (利用しやすいコミュニティバスの料金の検討)

美浜町コミュニティバスの運賃は、一乗車につき300円(大人)ですが、例えば、町の中心エリア内で比較的近くにある施設間の移動に利用するには、割高感があるとの声があります。町民が日々の外出で、気軽にコミュニティバスを使えるよう、料金設定の見直しについて検討します。

この検討については、予約便の方式に関する「実証運行」に合わせて行います。

#### (路線バス(美浜町区間)の均一料金制の検討(試行))

福井鉄道バス(若狭線・菅浜線)の現在の利用料金は、敦賀市内区間は一律200円ですが、美浜町から乗車した場合は距離制となり、例えば、美浜駅～敦賀駅は660円、丹生～敦賀駅は970円(大人)です。町民が中心エリアや敦賀市等への外出で、路線バスを使う動機づけとなるよう、美浜町区間の「均一料金制」について、検討を行います。この取り組みは、町が主体となって、バス事業者や敦賀市等と調整を行い、「試行」等を踏まえた適用性の検証を行います。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○		

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

町の中心エリアに立地する店舗等を多くの町民が利用していますが、公共交通を利用していく人は限られているのが現状です。

そこで、町民の外出で、公共交通等を気軽に使えるようにし、利用の動機づけとするため、店舗等と公共交通がコラボしたサービス等の可能性について検討します。

**(公共交通での来店者への特典等の企画の可能性検討)**

町内の店舗等と公共交通のコラボによって、例えば、鉄道・バス・タクシーで来店した人等への特典・割引・ポイント付与等の企画について、可能性を検討します。この取り組みについては、町の呼びかけにより、店舗関係者、公共交通事業者との意見交換の場を設けて検討します。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (店舗関係者等)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

本町から敦賀市の店舗、病院等へ日常的に出かける町民が多数いますが、その間を運行するJR小浜線と福井鉄道バスは昼間の利用客が少なく、便数も少なくなっています。

利用客が少ない中、大幅に便数を増やすのは現実的ではありませんが、敦賀市方面への行き来が少しでも便利になるよう、ダイヤの調整の可能性について検討します。

**(昼間の小浜線と路線バスのダイヤ調整の可能性検討)**

現行の昼間の片方面の便数は、概ねJR小浜線が1~3時間に1便、福井鉄道若狭線が1~4時間に1便となっていますが、これまでは各社個別にダイヤ設定が行われています。例えば、利用客の選択肢を増やす(美浜駅~敦賀駅の移動でいずれかを選べるようにする)ことを目的として、昼間のダイヤをなるべく補完し合うようにずらす等の方策も考えられるため、利用客のニーズも把握しながら運行事業者間及び町が意見交換を行い、利用客にとって便利となるダイヤ調整の可能性について検討します。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○	●		

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

## 方向性3 わかりやすく、人にやさしい公共交通の利用環境を提供する。

### 取り組み 3-1

#### 公共交通のわかりやすい情報提供

本町には鉄道、路線バス、コミュニティバスなど複数の公共交通、複数の路線が運行していますが、利用客は少なく、利用する人も、ほぼ決まった路線を利用している状況です。また、高齢者等や来訪客にとって、公共交通の情報が、全体としてわかりにくいとの声があり、特にコミュニティバス（予約便）の情報は、知らない人も多い状況です。

これまで公共交通をあまり使わなかった人や高齢者、来訪客等にとって、わかりやすい方法で、外出前の情報を提供します。

##### （誰もがわかりやすい時刻表の作成）

現在のバスの時刻表等が高齢者等には難しく、町内全体の公共交通の情報をわかりやすくするよう望む声があるため、最小限の情報だけを見やすく簡潔に示す時刻表を作成します。

##### （コミュニティバスの予約・利用方法のわかりやすい案内チラシの作成）

特に、コミュニティバス予約便のことを詳しく知らない町民が多く、予約便のことに気づかず来訪する観光客も多い状況です。また、知っていても使い方がわかりにくいとの声もあるため、「実証運行」を行うコミュニティバス予約便については、高齢者等をはじめ誰もが予約・利用しやすい仕組みにするとともに、利用方法や運行予定等について、わかりやすい簡易な案内チラシを作成します。

##### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○		

（●：取り組み主体 ○：連携・協力）

### 取り組み 3-2

#### 道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅の案内の充実

「美浜駅」には、鉄道、複数路線のバス、タクシーが発着しています。また今後、道の駅「若狭美浜はまびより」のオープンにより、多くの団体バスや周遊バス等が訪れることにも期待されます。一方、多様な公共交通等が発着することで、乗り場等が不案内になる危惧もあります。

そこで、利用客が乗り場等に迷うことのないよう、現地でわかりやすく案内します。

##### （乗り場の総合的な案内、わかりやすい表示）

「若狭美浜はまびより」及び美浜駅において、路線バス、コミュニティバス、タクシー等の乗り場



の総合的な案内を行います。また、行先に応じたバス、タクシー等の乗り場を示すわかりやすい標示を設置します。

#### (道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅の観光案内所との連携)

町の公共交通と観光の関連部門、「若狭美浜はまびより」の案内カウンター、美浜駅観光案内所が連携し、町から提供する公共交通の案内チラシを設置するとともに、公共交通の基本的な情報を伝達することにより、スタッフによる来訪者への案内のフォローができるようにします。

#### (道の駅「若狭美浜はまびより」施設内のリアルタイム運行情報の提供)

「若狭美浜はまびより」の施設内において、デジタルサイネージを設置し、JR 小浜線や新幹線等の列車運行情報や、バス等のリアルタイムの運行情報（遅れ情報やバスロケ等）を提供します。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、観光等)	○	● (若狭美浜はまびより、 美浜駅・観光協会)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

### 取り組み 3-3

#### 駅・店舗・病院等での案内・待合環境の充実

町内の駅、店舗、病院など主要な施設には、路線バスやコミュニティバスが運行していますが、建物からバス停が離れており、荒天時や酷暑・猛暑のシーズンでも、運行状況をバス停まで見に行ったり、屋外で待ったりしなければならない場合があります。

そこで、駅待合室や店舗・病院等の施設内で、バス等を待てるよう工夫を行います。

#### (待合室・建物内への公共交通情報の設置)

バス停等まで時刻表や運行状況をなるべく見に行かず、駅、店舗・病院等の中で、バス到着直前やちょうど良い時刻まで待てるようにするため、待合室、建物内に鉄道・バスの情報を設置します。町が駅や施設の関係者と、時刻表の掲示について調整するとともに、今後、簡易なタブレット端末等による列車運行情報、バス位置情報（遅れ情報やバスロケ等）の提供等についても検討します。

#### (建物付近のコミュニティバスの発着、施設との連携による利用客への支援等)

美浜駅、町役場、レイクヒルズ美方病院、Aコープ等は、コミュニティバスがすでに敷地内に乗り入れています。荷物を持った高齢者等がなるべく歩かずに済むよう、建物付近での発着について、順次、町が店舗等と調整します。また、乗務員と店舗・病院の窓口スタッフ等の協力による高齢者等へのバス到着の案内や荷物積み下ろしの支援等についても調整します。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○	○ (施設関係者等)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

高齢者や障がいのある方にも使いやすい公共交通になるよう、施設等のバリアフリー化について、今後とも継続的に検討します。また、高齢者や障がいのある方の公共交通利用への助成等について、継続的に取り組みます。

**（駅、駅前等のバリアフリー化に関する検討）**

現在（計画策定時）、美浜駅前施設を改良中であり、バリアフリーの基準に準拠しています。美浜駅の施設のバリアフリー化については、今後とも、町と鉄道事業者が継続的に検討するとともに、スロップのある東美浜駅の活用も検討します。バス等の車両の更新時には、乗降時の負担が小さい車両を選ぶよう留意します。

**（高齢者や障がいのある人への利用助成の継続的な取り組み）**

高齢者や障がいのある人の活発な外出を支援するため、現在行っている JR 小浜線・福井鉄道バスの助成・割引、コミュニティバスの料金免除・シルバーパス、タクシー利用料金助成等について、公共交通事業者、町の公共交通と福祉の関連部門が連携し、継続的に取り組みます。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、福祉等)	●		

（●：取り組み主体    ○：連携・協力）

**方向性 4** クルマ中心の行動スタイルの変容を促すとともに、公共交通への意識を育む。

**取り組み 4-1** 町民への公共交通利用の広報・PR 活動

本町では、鉄道、路線バス、コミュニティバス等の公共交通が、概ね町域をカバーしていますが、高齢者等を含め町民の多くが、クルマ中心の行動スタイルとなっているため、公共交通の利用客はきわめて少なく、外出手段として意識されていないのが現状であり、このままでは、今後、公共交通を確保・持続し、便利になったとしても、うまく活かされない危惧があります。

道の駅「若狭美浜はまびより」のオープン、新幹線敦賀開業を機として、この現状から脱却するため、「モビリティ・マネジメント」の観点から、少しずつでもクルマ中心の行動スタイルの変容を促すとともに、地域の公共交通を地域の住民が使って守る意識を醸成する施策に取り組みます。

「モビリティ・マネジメント」：コミュニケーションを中心に、考える機会を提供することにより、クルマに依存した状態からクルマ以外の手段へと、少しずつ自発的に意識・行動が変容し定着するよう促す取り組み。

**(小浜線のPR活動の継続)**

本町も構成員となっている小浜線利用促進協議会による「おばませんサポーターズクラブ」や、フォトコンテスト、フリーペーパー、スタンプラリー等の広報・PR 活動や、ボランティア活動の支援等について、継続的に取り組みます。

**(町の媒体等による町民へのPR活動)**

本町のホームページ、「広報みはま」等の媒体への記事の掲載、イベント等でのブース出展や掲示物・配布物等により、公共交通の厳しい運営状況を伝えるとともに、クルマ中心の行動スタイルを変容し、公共交通を利用することについて、町民に呼びかけます。

**(施設・集客イベント等とのタイアップによる呼びかけ)**

多くの町民が訪れる店舗・病院、集客イベント等にタイアップを依頼し、施設内の掲示や広報物等に、クルマを控え、公共交通で来場する旨を記載し、町民に呼びかけます。

**(庁内各種部門のイベントの連携による“公共交通+歩くこと”のPR活動)**

クルマを使いすぎず“公共交通+歩くこと”で、「健康増進」につながる行動スタイル、あるいは、カーボンニュートラル（脱炭素）で「地球環境」にやさしい行動スタイル等の観点から、庁内の公共交通部門と、健康や地球環境の関連部門が連携し、相互のイベント等でのPR 活動を行います。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、健康、地球環境等)		○ (施設・イベント関係者等)	● (積極的な参加)

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

運転免許を取得してクルマ中心の行動スタイルになる前の年代のうちに、公共交通の大切さを伝えるとともに、公共交通を利用する意識を醸成することを目的として、小中学生や高校生を対象とした取り組みを行います。

**(バスの乗り方教室)**

町とバス事業者が連携し、賛同が得られた小学校や地域に出向いて、児童や家族連れを対象としたバスの乗り方教室を開催します。

**(校外学習等での公共交通の利用)**

町から学校に依頼し、校外学習や部活動の遠征等の際の児童・生徒の移動手段として、なるべく公共交通を利用するよう呼びかけを行います。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (学校関係者等)	● (積極的な参加)

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

本町では、高齢者でもクルマ中心の行動スタイルとなっている人が大半であり、運転しない年齢になっても、公共交通ではなくクルマでの送迎・同乗が志向される状況であるため、交通安全の面も考慮し、これまで、あまり公共交通を利用していなかった高齢者等への動機付けとすることを目的とした取り組みを行います。

**(公共交通の相談会・乗車体験会)**

高齢者等の公共交通に対する抵抗感を軽減するため、町の主催により、公共交通の利用に関する相談会、鉄道・バスの乗車体験会等を開催します。

**(免許返納者への支援策の継続的な検討)**

現在、本町では「美浜町ドライバー等卒業支援サービス事業」(高齢者の交通事故の防止を目的とした、運転免許の自主返納者への支援事業)として、コミュニティバス無料定期券や、バス・タクシー利用券の交付を行っています。今後も事業を継続し、早い段階から返納を促すなど、より充実した支援策となるよう検討していきます。また、高齢者等への呼びかけを積極的に行います。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○	○ (警察、高齢者団体、自治会等)	● (積極的な参加)

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

本町では、通勤の利用交通手段としてクルマを利用する人が大半であり、鉄道・バスの利用は少なく、また、通勤で歩くことも少ないのが現状です。

そこで、カーボンニュートラル（脱炭素）による地球環境への悪影響の低減、クルマを使い過ぎないことによる従業員の健康増進等の観点から、賛同する企業等を対象としたエコ通勤の呼びかけを行います。

**（事業所・団体等へのエコ通勤の呼びかけ）**

地域貢献や社会貢献の意識が高く賛同が得られる町内の大手企業や、協会・組合等の団体に対して、町が協力を依頼し、例えば、月に1回の任意の日に、従業員が、JR小浜線、路線バス、コミュニティバスや、徒歩・自転車など、クルマ以外の手段で通勤するよう呼びかけを行います。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●		○ (企業、団体等)	● (積極的な参加)

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

地域の住民が主体的に、地域の公共交通や外出手段のことを考える機会を持つことによって、地域全体としての意識を醸成する取り組みを行っていきます。

**（地域主体で考える機会の提供・支援）**

外出手段や公共交通について、住民が主体的に意見交換する機会として会合を設ける地区や、住民による送迎サービスを地域で主体的に考える地区等に対し、町からのアドバイザーを派遣すること等によって支援を行う仕組みを検討します。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○		● (自治会等)	● (積極的な参加)

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

## 方向性 5

地域の拠点づくり・にぎわい創出と連携した取り組みを行う。

### 取り組み 5-1

#### 道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅を集客・乗り継ぎ拠点とした周遊手段等の充実

道の駅「若狭美浜はまびより」は、「美浜町地域づくり拠点化施設整備事業」の中心的なプロジェクトであり、駅、駅前だけでなく、周辺エリアも含め、人が往来することによる、にぎわいの創出を目指しています。

この拠点づくり・にぎわい創出に、公共交通として寄与するため、道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅を集客・乗り継ぎ拠点とした周遊手段の充実に取り組みます。

##### （町民の利用状況に応じたバス等の運行方法の見直し）

町民の買い物など、「若狭美浜はまびより」の日常的な利用状況に応じて、コミュニティバス、路線バス等の運行方法の見直しを行います。

##### （観光オンシーズンの運行方法の検討）

北陸新幹線敦賀開業後の観光客等の動向に応じて、観光オンシーズンの休日における鉄道・路線バス等の運行ダイヤ、観光に便利なコミュニティバスの運行方法や予約便の運用方法等について、町、公共交通事業者が意見交換の場を設け検討します。

##### （多様なサービスの検討） 【再掲】

観光等で町外から来訪する人にとって便利な、種々のサービスを検討します。

##### （レンタサイクルやカーシェアの充実）

美浜駅で提供されているレンタサイクルやカーシェアのサービスを継続し充実するよう検討します。また、町や観光関係者が連携し、観光客等へのPRを強化します。

##### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

### 取り組み 5-2

#### 観光・集客と連携した広報・PR 活動

観光客等が、本町に来訪する前に情報を提供することで、クルマではなく、公共交通を利用した来訪や周遊を促すため、公共交通と観光施設や集客イベント等の関係者が連携し、広報・PR活動を行います。

### (来訪前の広報・PR)

町の公共交通と観光の関連部門が連携するとともに、町が観光施設、集客イベント、電池推進遊覧船等の関係者と連携し、来訪前の観光客向けの種々の媒体による情報や、広報・PR等によって、なるべくクルマでの利用を控え、公共交通を利用して来訪するよう呼びかけます。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、観光)		○ (観光・施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

### 取り組み 5-3

## コミュニティバス（予約便）の観光客向け情報の充実

現状では、観光客等が、コミュニティバス（予約便）の利用方法等について、本町に来訪してから知るケースが見られます。

この状況を改善するため、コミュニティバスの観光客向けの事前情報を充実します。

### (観光関連媒体によるコミュニティバスの事前情報の提供)

コミュニティバスの利用方法を事前に周知できるように、町の観光部門や観光関係者と連携し、観光関連のホームページ等で、観光客向けのわかりやすい情報を提供します。

なお、本町に来訪してから予約便のことを知った人のため、来訪後にも登録・予約等ができる仕組みについて検討します。この検討については、予約便の方式に関する「実証運行」に合わせて行います。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、観光)		○ (観光・集客関係者)	

(●：取り組み主体 ○：連携・協力)

### 取り組み 5-4

## 道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅を活かした周遊企画

現在、敦賀駅～三方五湖を巡る周遊バス「ゴコイチバス」の試験運行や、JR 小浜線を利用した観光のキャンペーン、クーポン、周遊きっぷ等の企画が行われています。

本町がめざす賑わいの創出に貢献するため、拠点となる道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅を活かした周遊の企画について、今後とも公共交通と観光・施設の関係者が連携して取り組みます。

### (周遊バスやツアー企画等に関する調整)

観光客にとって魅力あるコンテンツで構成される周遊バスや、ツアー企画等となるよう、市町・県

の公共交通と観光の関連部門、公共交通事業者、観光・施設関係者が、定期的に意見交換や調整を行いながら、継続的に取り組めます。

### （小浜線の観光列車等の企画）

嶺南地域を周遊する観光を促進するため、運行事業者や観光・施設関係者の連携により、観光列車やイベント列車、サイクルトレインなど、JR小浜線と観光・集客資源を活かした魅力的な企画について検討します。これらの取り組みは、「嶺南地域公共交通活性化協議会」や「小浜線沿線観光活性化会議」の関係者との意見交換や調整を行いながら取り組めます。

#### ■この取り組みの主体

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (公共交通、観光) (市町、県が連携)	●	● (観光・施設関係者)	

(●：取り組み主体    ○：連携・協力)

取り組み  
5-5

### 道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅の案内の充実 【再掲】

(乗り場の総合的な案内、わかりやすい表示) 【再掲】

(道の駅「若狭美浜はまびより」・美浜駅の観光案内所との連携) 【再掲】

(道の駅「若狭美浜はまびより」施設内のリアルタイム運行情報の提供) 【再掲】

取り組み  
5-6

### デジタル化やアプリ等による気軽に使える環境づくり

他の地域では、公共交通の要素技術のデジタル化が進展しているとともに、アプリ等を活用した民間による多様なサービス等も登場しています。

本町においても、それらを活用して、気軽に公共交通を使える環境づくりに取り組めます。

#### （コミュニティバス等のキャッシュレス化）

コミュニティバス等で、交通系ICカード、クレジットカード、電子マネー等を利用可能とするよう、設備の導入を進めます。

#### （経路検索サイトによる情報提供、バス位置情報の導入の検討）

コミュニティバス情報のオープンデータ化及び更新を継続することで、一般的な経路検索サイトを介した情報を提供するとともに、インターネット、スマホアプリ等でのバス位置情報の提供（バスロケーションシステム）について検討します。

#### （インターネットによるコミュニティバスの予約方式）

実証運行を行うコミュニティバス予約便については、インターネット（WEBサイト、アプリ等）に



よる予約方式を試験的に導入します。(なお、実証運行の予約便については、AI を活用した配車システムを試験的に導入します。)

**(MaaS の実現に向けた調査・検討の推進)**

現行の公共交通だけでなく、本町の地球環境部門が取り組む再生可能エネルギーEV、FC バス等への転換促進を支援する MaaS の実現に向けて、次世代自動車や技術開発の動向に関する情報収集にとめます。あわせて、MaaS 実現の鍵となる関係者の連携の仕組みに関し、公共交通事業者、観光・施設関係者等の参加の可能性について意見交換を行います。

**■この取り組みの主体**

美浜町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体    ○：連携・協力)

「EV」    : 電気自動車

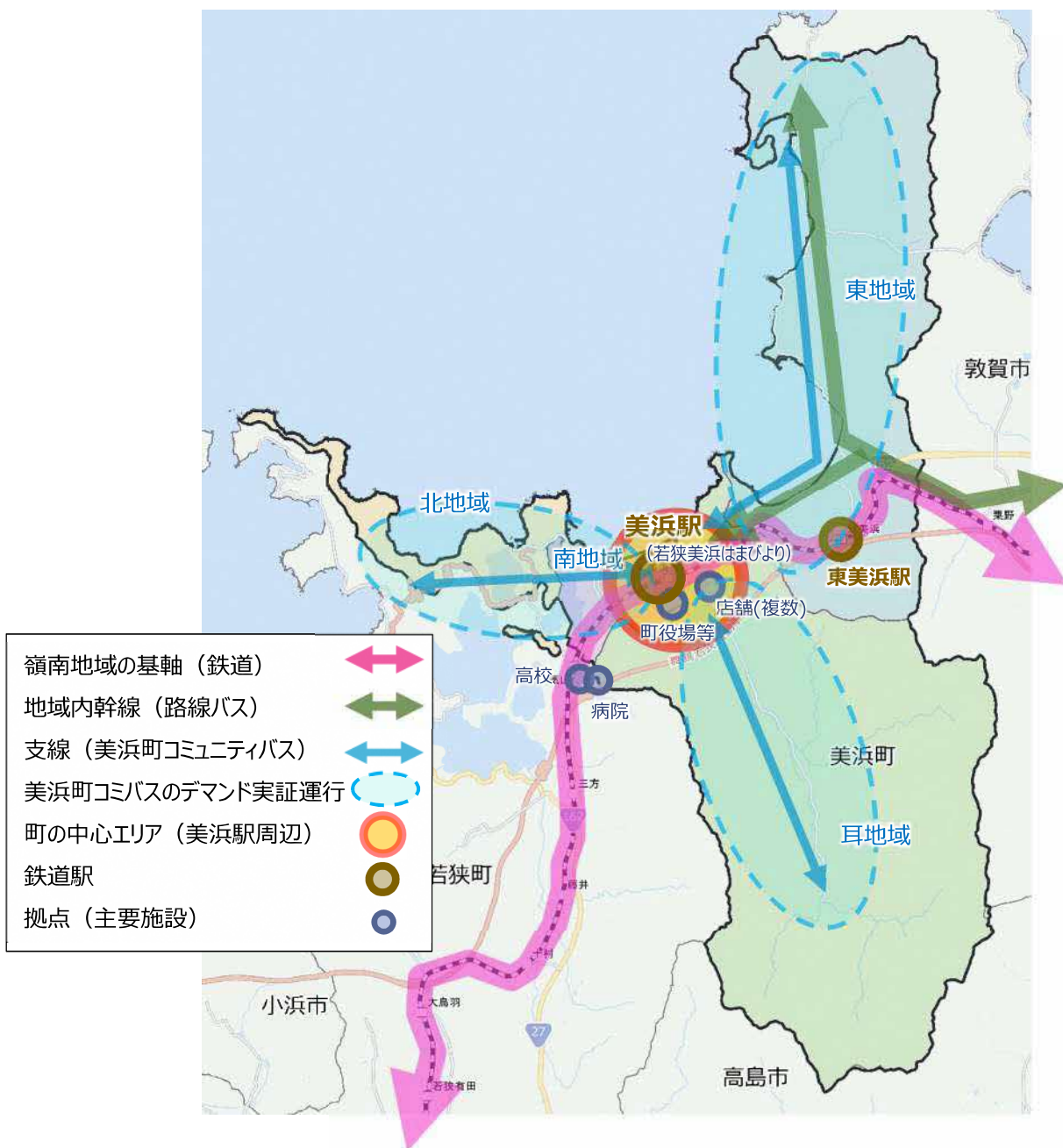
「FC バス」: 燃料電池バス

「MaaS」 : Mobility as a Service 複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス

## 2. 将来の公共交通ネットワーク

町民の日々の暮らしや、拠点を活かしたまちづくりを支える公共交通サービスとして、公共交通ネットワークの現在の構成を活かし、地域の実情に応じた運行方法・運行形態、既存の公共交通や移動サービスの連携について検討しながら、将来まで持続する公共交通をめざします。また、町内各地域からの外出、中心エリア内の移動、他市町との間の移動等について、わかりやすさ、使いやすさを向上するだけでなく、町民意識の変容・醸成を通じた公共交通の利用促進を図るとともに、まちの賑わいへの貢献をめざした取り組みを行います。

### 《将来の公共交通ネットワークのイメージ》



・美浜町の各路線の位置づけ・役割等

位置づけ	路線		役割	確保・維持策
広域路線 (嶺南地域の基軸)	JR 小浜線		嶺南地域の基軸として、各市町間の移動、敦賀駅と各市町との間の移動を担います。	沿線市町、県、鉄道事業者等が連携しながら、利用客への助成、小浜線を使った観光・周遊企画、小浜線のPR活動、案内・情報の充実、町民へのモビリティ・マネジメント等によって利用客の確保に取り組み、鉄道事業者と協議の上、運行水準の確保を目指します。
地域内幹線	路線バス	福井鉄道 若狭線	美浜駅を発着地として、町内を経由し敦賀市の拠点との間の移動を担います。	本町とバス事業者等が連携しながら、利用客への助成、運行方法の調整、案内・情報の充実、町民へのモビリティ・マネジメント等によって利用客の確保に取り組むとともに、本町・敦賀市等が連携して、地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し、持続可能な運行を目指します。
		福井鉄道 菅浜線	本町の東地域から、町内を経由し敦賀市の拠点との間の移動を担います。	
支線	美浜町コミュニティバス	丹生線	町内各地域から、町の中心エリア・地域拠点との間の移動を担うとともに、鉄道・路線バスに接続します。	本町と運行事業者が連携しながら、デマンドに関する実証運行を踏まえた運行方式・形態等の見直しによる効率化、利用客への助成、利便性の向上、案内・情報の充実、町民へのモビリティ・マネジメント等による利用客の確保に取り組むとともに、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し、持続可能な運行を目指します。
		日向線		
		新庄線		

(参考：補助系統に係る事業及び実施主体の概要)

系統	起点	経由地	終点	運行形態	実施主体	補助事業の活用
福井鉄道バス ・若狭線 ・菅浜線	敦賀駅	佐田	美浜駅前	路線定期運行	バス事業者	幹線補助
	敦賀駅	水晶浜	白木			
美浜町コミバス ・丹生線 ・日向線 ・新庄線	丹生	美浜駅	レイクヒルズ	路線定期運行 (一部の便は 予約制・区域運行)	美浜町 (運行は事業者へ委託)	フィーダー補助 (実証運行後)
	レイクヒルズ	美浜駅	レイクヒルズ			
	新庄	美浜駅	レイクヒルズ			

# VII

## 今後の進め方

本町の公共交通がめざす姿の実現に向け、計画期間において、本計画に基づく取り組みを進めていきます。また、めざす姿が実現できたかどうかを把握するための指標と目標値を設け、評価・検証を行います。

### 《達成状況の検証》

計画を進めるに当たっては、PDCA (Plan・Do・Check・Action) のサイクルによる継続的な取り組みを行い、必要に応じて適宜改善を図っていきます。取り組みの実施状況、目標の達成状況については、各年度及び最終年度に確認・検証し美浜町地域公共交通会議で報告します。

また今後、本町の公共交通を取りまく地域や社会の情勢、交通手段に関する技術革新の動向、人々の意識・行動や嗜好・流行の変化等によっては、計画内容の更新、見直し等を行うことも必要となります。



Plan : 計画・調整等  
 Do : 取り組みの実行  
 Check : 進捗状況の確認、評価・検証  
 Action : 更新・見直し等

<b>Plan</b>	<b>本計画</b> にもとづいて、具体的な実施方法の検討、関係者との調整等を行います。計画期間中の状況に応じて計画の見直しを行います。
<b>Do</b>	現状の公共交通を確保・持続しながら、町民の外出を便利にする取り組み、わかりやすく、人にやさしくする取り組み、町民の行動スタイルを変容し意識を醸成する取り組み、拠点・にぎわいづくりと連携する取り組みを <b>実行</b> します。また、計画期間中に、デマンドの「 <b>実証運行</b> 」や、「 <b>試行的な実施</b> 」も行います。 取り組みの実行にあたり、 <b>町、運行事業者、関係者</b> は <b>意見交換</b> の場を設けるなど、「 <b>連携</b> 」して取り組みます。「 <b>町民等</b> 」は、クルマや公共交通のことを「 <b>考える機会</b> 」を <b>積極的に持つ</b> とともに、 <b>積極的に「公共交通を利用</b> 」します。
<b>Check</b>	計画期間の <b>各年度</b> に、取り組みの状況、運行状況、利用状況等を <b>チェック</b> します。町民・来訪客等の状況に関する調査、実証運行、試行等を行った際は、その都度、検証します。 <b>最終年度</b> には、計画期間を通した取り組みの <b>全体に対する評価・検証</b> を行います。
<b>Action</b>	チェックの結果から、取り組み状況、運行・利用状況、意識の状況等が <b>思わしくない場合等</b> には、本計画の「 <b>方向性</b> 」に即した <b>見直し</b> を行います。

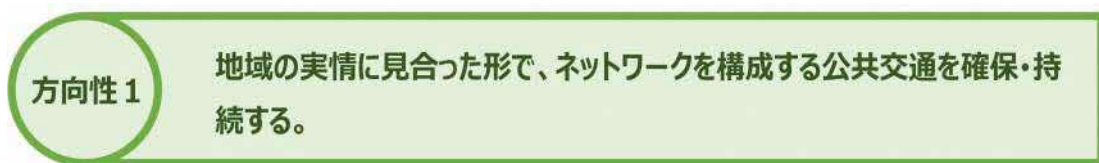
### (取り組みの進め方)

	R 5年度 4 7 10 1	R 6年度 4 7 10 1	R 7年度 4 7 10 1	R 8年度 4 7 10 1	R 9年度 4 7 10 1
<b>Plan</b>	次年度の計画・調整	次年度の計画・調整	次年度の計画・調整	次年度の計画・調整	次年度の計画・調整
<b>Do</b>	取り組みの実行				
<b>Check</b>		前年度の確認	前年度の確認	前年度の確認	前年度の確認 全体の評価・検証
<b>Action</b>		更新・見直し等	更新・見直し等	更新・見直し等	更新・見直し等

\* 前年度の取り組み状況の確認、全体の評価・検証の結果は、美浜町地域公共交通会議で報告。

## 《評価指標と目標値》

取り組みの方向性を踏まえ、本計画における指標と目標値を以下のように設定します。なお、現況値については、新型コロナウイルス感染拡大による外出行動への影響が大きい期間を考慮し、なるべく平常時と考えられる年度を基本に設定しました。計画期間における目標達成状況の評価についても、その時点での状況・経過を考慮する必要があります。



### ●鉄道・路線バスの利用客の確保・持続

公共交通の利用客数が確保され持続可能となっている状況を測る目安として、人口減少が進展する状況においても、基軸となる小浜線や路線バスの通勤・通学等の日常的な利用客（固定客）が確保されていることを指標とします。

#### ・指標① 美浜町内鉄道駅の乗車人員（定期券利用客）

	現況値（令和元年度）	目標値（令和9年度）
目標値	181人／日	190人／日

- ・福井県統計年鑑による美浜駅・東美浜駅の1日平均乗車人員（定期券利用客）の合計。
- ・利用客の減少が続く現状に対し、利用促進を図ることにより、定期券利用客（固定客）を確保し5%増を目指します（嶺南地域公共交通網形成計画の目標と整合）。

#### ・指標② 福井鉄道バスの定期券購入者数（美浜町内を含む区間）

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	16人（6か月）	現状確保

- ・福井鉄道資料による若狭線・菅浜線（美浜町内を含む区間）の定期券を購入した実人数（4～9月）。
- ・利用客の減少が続く現状に対し、利用助成等の取り組みに合わせ、利用促進を図ることにより、固定客を確保し現状維持を目指します（嶺南地域公共交通網形成計画の目標と整合）。

### ●美浜町コミュニティバスの運行の効率化

公共交通が効率的に運用されている状況を測る目安として、コミュニティバスの昼間の予約便のデマンド方式の見直し等により、運行した便の乗合率が向上し効率がよくなることを指標とします。

・指標③ 美浜町コミュニティバスの予約便（デマンド）の平均乗合率

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	1.36 人／便	1.6 人／便以上

- ・コミュニティバス 3 路線の予約便のうち、「運行した総便数」に対する「総利用客数」の割合（現況値は、ダイヤ改正後の令和 4 年 6 月の実績）。
- ・効率化のための予約便のデマンド方式の見直し及び種々の PR 等により、現状よりも、運行した便の相乗り人数（同じ便に乗る人数）を増やすことを目標値とします。予約・配車のシステムは計画期間中の実証運行で設定・試行することから、達成状況に応じて見直しを行います。



●バス等を利用した外出の増加

町内の各地区に住む人の日々の外出に、公共交通が便利に使えるようになっている状況を測る目安として、コミュニティバス、路線バスが多く町の民に利用されることを指標とします。

・指標④ 美浜町コミュニティバス（デマンド含む）の利用客数

	現況値（令和元年度）	目標値（令和9年度）
目標値	10874 人／年	11000 人／年

- ・コミュニティバス 3 路線（デマンド含む）の年間延べ利用客数。
- ・令和元年度以降も利用客の減少が続き、人口減少も見込まれる状況ですが、地域の実情に応じた運行形態の見直しに合わせ、PR、行動スタイルの見直し等による利用促進を図ることにより、コロナ禍前の現況値と同等以上の利用客数の確保を目指します。

・指標⑤ 福井鉄道バスの乗降客数（美浜町内のバス停・乗降計）

	現況値（平成 30 年度）	目標値（令和9年度）
目標値	平日 73 人／日	平日 80 人／日

- ・福井鉄道資料による若狭線・菅浜線の美浜町内バス停の 1 日の乗降客数の合計（現況値は平成 30 年 6 月調査の実績値（乗降計））。
- ・利用客の減少が続き、人口減少も見込まれる状況ですが、敦賀方面への利用を便利にする方策に合わせ、PR、行動スタイルの見直し等による利用促進を図ることにより、コロナ禍前の現況値と同等の乗降客数の確保を目指します（嶺南地域公共交通網形成計画の目標と整合）。

### 方向性 3

わかりやすく、人にやさしい公共交通の利用環境を提供する。

#### ●公共交通の満足度・認知度の向上

公共交通全体のわかりやすさ・使いやすさが向上した状態を測る目安として、町民の公共交通全体に対する満足度やバスの認知度が向上することを指標とします。

##### ・指標⑥ 美浜町内の公共交通全体に対する満足度

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	28%	50%以上

- ・町民アンケート（65歳以上）による「町内の公共交通の利便性に対する全体的な満足度」で、「わからない」を除いて算出した「満足」「やや満足」との回答の合計。（現況値は令和4年度のアンケート結果）
- ・公共交通全体を使いやすさ、わかりやすさの向上に取り組み、現状より高い満足度を目指します。

##### ・指標⑦ 美浜町内のバス等の認知度

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	41%	60%以上

- ・町民アンケート（65歳以上）による「町内のバスの認知状況」の「町全体の路線・行先等をおおむね知っている」「近くの路線等だけおおむね知っている」との回答の合計。（現況値は令和4年度のアンケート結果）
- ・バスの運行情報や予約便等の利用方法をわかりやすく伝える取り組みを行い、現状より高い認知度を目指します。

### 方向性 4

クルマ中心の行動スタイルの変容を促すとともに、公共交通への意識を育む。

#### ●町民の意識・行動スタイルの変容

町民の過度なクルマ利用の見直し、公共交通に対する意識の醸成を図り、公共交通の持続につながる状況を測る目安として、モビリティ・マネジメントの取り組みが、町民や関係者の理解と参加のもと着実に実施されていることを指標とします。また、公共交通にほとんど乗っていない町民が減少することを指標とします。

・指標⑧ モビリティ・マネジメントに関する取り組みの開催回数

	現況値（令和4年度）	目標値（計画期間中）
目標値	なし	10回/5年

- ・乗り方教室、出張相談会、乗車体験会等の開催、地区・イベント等へ出向いての広報活動の実施回数。
- ・町民の過度なクルマ利用の見直し、公共交通に対する意識の醸成に向けたモビリティ・マネジメントの活動等が着実に開催・実施されていることを目標値とします（嶺南地域公共交通網形成計画の目標と整合）。

・指標⑨ 美浜町の鉄道・バスにほとんど乗らない町民（高齢者）の割合

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	（小浜線）94%	80%以下
	（福井鉄道バス）97%	90%以下
	（美浜町コミュニティバス）97%	90%以下

- ・町民アンケート（65歳以上）による「町内の公共交通（小浜線・福鉄バス・コミバス）の利用頻度」で、「年に数日以下」「乗ったことがない」との回答の合計。（現況値は令和4年度のアンケート結果）
- ・コミュニティバスの見直し、駅・主要施設の利用環境充実や利用促進策に取り組み、ほとんど公共交通を利用しない町民の割合が現状以下となることを目標値とします。



●地域の拠点づくり・にぎわい創出の取り組みと公共交通の連携

まちづくりと連携し、公共交通が拠点づくり、にぎわい創出に貢献している状態を測る目安として、関係者の連携、町民・来訪客の参加による取り組みが行われることを指標とします。

・指標⑩ 公共交通が連携した集客イベントや周遊企画の件数

	現況値（令和4年度）	目標値（令和9年度）
目標値	3件/年	10件/年

- ・公共交通が連携した、イベント・企画の件数（現況値は、小浜線いちご狩りクーポン、ゴコイチバス、GO!joinキャンペーン）
- ・関係者の連携、町民・来訪者の参加により、公共交通が連携したイベント・企画や臨時便の運行等が着実にされていることを目標値とします。



## ●公共交通を利用した来訪客の増加

まちづくりと連携し、公共交通が拠点づくり、賑わい創出に貢献している状態を測る目安として、町の中心エリアの公共交通利用客が増加することを指標とします。

### ・指標⑪ 美浜駅の乗車人員（定期・定期外計）

	現況値（令和元年度）	目標値（令和9年度）
目標値	222 人/日	<b>233 人/日</b>

- ・福井県統計年鑑による美浜駅の1日平均乗車人員（定期・定期外計）。
- ・拠点づくり・賑わい創出（観光振興等）と公共交通が連携した取り組みにより、小浜線の定期利用客だけでなく定期外利用客が5%増加することを目標値とします（嶺南地域公共交通網形成計画の目標と整合）。

### ・指標⑫ 美浜町コミュニティバスの町外登録者数

	現況値	目標値（令和9年度）
目標値	—	<b>100 人</b>

- ・美浜町コミュニティバスの予約便は、次年度以降、登録制とし、デマンド方式の見直しに関する実証運行を行う予定です。PR広報によって、町民だけでなく、観光の町外からの来訪者にも利用されることを目指します。
- ・現況値は把握していないことから、当面の努力目標を100人とし、達成状況に応じて見直しを行います。

\*令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症による外出行動への影響が大きい期間であることを考慮し、以上の指標では、令和元年度または令和4年度（計画策定期間中）を基本に現況値を設定しました。

## 《SDGs への貢献について》

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標であり、2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。我が国では、SDGsアクションプランにおいて、2030年の目標達成に向けた行動を行うこととされています。

本町の第五次総合振興計画においてもSDGsの視点を取り入れ、各施策が多様な目標に結びついていることを示しています。



また、日本政府による国内の取り組みの中で、「目標 11 [住み続けられるまちづくりを]」に向けたターゲットの1つ（ターゲット 11.2）として公共交通に関する事項が掲げられています。

	<p><b>都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする</b></p> <p>(ターゲット 11.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、<b>公共交通機関</b>の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。</li> </ul>
--	--

本計画の取り組みの方向性は、「目標 11」のまちづくりの面だけでなく、その他、健康と福祉、エネルギー、経済の活性化、自然環境など多くの面で、SDGs の考え方に合致しています。したがって、本計画が「めざす姿」を実現することによって、SDGs 達成に貢献できるよう、本計画の取り組みを推進していきます。

## 《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「美浜町地域公共交通会議」において行います。

## 《今後の取り組みの概略スケジュール》

取り組みごとに、具体的な実施体制等について調整・決定し、2023 年度以降の 5 年間で、細目のメニューの可否及び具体的な実施内容・方法の検討・準備等を行いながら、取り組みを進めます。必要に応じて、試行実施、実証運行を踏まえながら取り組み、状況によっては、計画の見直しも適宜行っていきます。取り組みの進捗状況、及び目標値のうち指標とした数値の経過が把握可能なものについては、毎年確認を行い、最終的な目標値の達成状況は令和 9 年(2027 年)に検証します。

取り組み		計画期間				
		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)
<b>1. 地域の実情に見合った形で、ネットワークを構成する公共交通を確保・持続する。</b>						
1-1	鉄道・広域路線バスの運行の持続と利用確保	継続的に実施				
1-2	効率化のためのコミュニティバスの運行方式の見直し (*実証運行)	実証運行			状況を踏まえ見直し	
<b>2. 町民の日々の外出に便利な公共交通サービスを提供する。</b>						
2-1	居住地をカバーするためのコミュニティバスの運行方式の見直し (*実証運行)	実証運行			状況を踏まえ見直し	
2-2	多様なサービスの推進及び検討	継続的に実施				
2-3	気軽に乗り降りできる料金等の仕組みの検討	継続的に実施				
2-4	町内の店舗等と公共交通のコラボによるサービス等の検討	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
2-5	敦賀方面への外出を便利にする小浜線・路線バスのダイヤの調整	検討・調整・試行実施		状況を踏まえ実施		
<b>3. わかりやすく、人にやさしい公共交通の利用環境を提供する。</b>						
3-1	公共交通のわかりやすい情報提供	継続的に実施				
3-2	道の駅「はまびより」・美浜駅の案内の充実	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
3-3	駅・店舗・病院等での案内・待合環境の充実	継続的に実施				
3-4	施設等のバリアフリー化や利用助成に関する継続的な検討	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
<b>4. クルマ中心の行動スタイルの変容を促すとともに、公共交通への意識を育む。</b>						
4-1	町民への公共交通利用の広報・PR活動	継続的に実施				
4-2	小中高生等の意識づくり	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
4-3	高齢者等の利用促進	継続的に実施				
4-4	企業等へのエコ通勤の呼びかけ	継続的に実施				
4-5	地域主体で外出手段を考える取り組み	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
<b>5. 地域の拠点づくり・賑わい創出と連携した取り組みを行う。</b>						
5-1	道の駅「はまびより」・美浜駅を集客・乗り継ぎ拠点とした周遊手段等の充実	継続的に実施				
5-2	観光・集客と連携した広報・PR活動	継続的に実施				
5-3	コミュニティバス（予約便）の観光客向け情報の充実	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
5-4	道の駅「はまびより」・美浜駅を活かした周遊企画	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
5-5	道の駅「はまびより」・美浜駅の案内の充実【再掲】	検討・準備・調整		調整ができた時点で実施		
5-6	デジタル化やアプリ等による気軽に使える環境づくり	継続的に実施				

(取り組みの検証)

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、全取り組み、全目標値の達成状況を検証



(巻末参考)

令和4年度 美浜町地域公共交通会議 委員名簿

(順不同、敬称略)

区分	団体名	役職	氏名
学識経験者	福井大学大学院工学研究科	教授	川本 義海
住民代表	美浜町区長会	代表	玉井 武志
	美浜町老人クラブ連合会	理事	吉岡 久雄
	美浜町婦人福祉協議会	副会長	西村 加代子
	美浜町民生児童委員協議会	副会長	牧田 茂男
	県立美方高等学校	指導部長	松見 道弘
	レイクヒルズ美方病院	事務長	内方 明彦
事業者	西日本旅客鉄道(株)金沢支社	敦賀地域鉄道部長	北林 荘八
	(公社)福井県バス協会	理事	小林 博之
	福井鉄道(株)自動車部	部長	惣宇利 健善
	美浜自動車株式会社	取締役	吉田 勇
	福井県交通運輸産業労働組合協議会	幹事	岡田 憲治
	(一社)福井県タクシー協会	専務理事	佐々木 貞明
関係機関	中部運輸局福井運輸支局	首席運輸企画専門官	五十嵐 重晃
	敦賀警察署 交通課	課長	乙部 隆史
	わかさ東商工会	主任	前田 修
	(一社)若狭美浜観光協会	常務理事	木子 光博
	美浜町社会福祉協議会	理事	四ツ橋 政和
	美浜町副町長		西村 正樹

(巻末参考)

**令和4年度 美浜町地域公共交通会議 開催概要**

	開催日	本計画に関する主な内容
第1回	2022年6月27日	地域公共交通計画の策定の進め方について
第2回	2022年9月29日	地域及び公共交通の現状と今後の方向性について
第3回	2022年12月9日	美浜町地域公共交通計画（素案）について
第4回	2023年1月13日	美浜町地域公共交通計画（案）について

## 美浜町地域公共交通計画

---

発行 美浜町住民環境課

〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市 25-25

Tel : 0770-32-6703 Fax : 0770-32-5885

---